大阪大学 COデザインセンター

大学院副専攻／大学院等高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」

STiPS 公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）
Program for Education and Research on Science and Technology in Public Sphere [STiPS]

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

履修ガイドブック・シラバス

2018

科学技術と社会を

架橋するのは誰か。

STiPS

公共圏における科学技術・教育研究拠点

副専攻／高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」が目指すもの

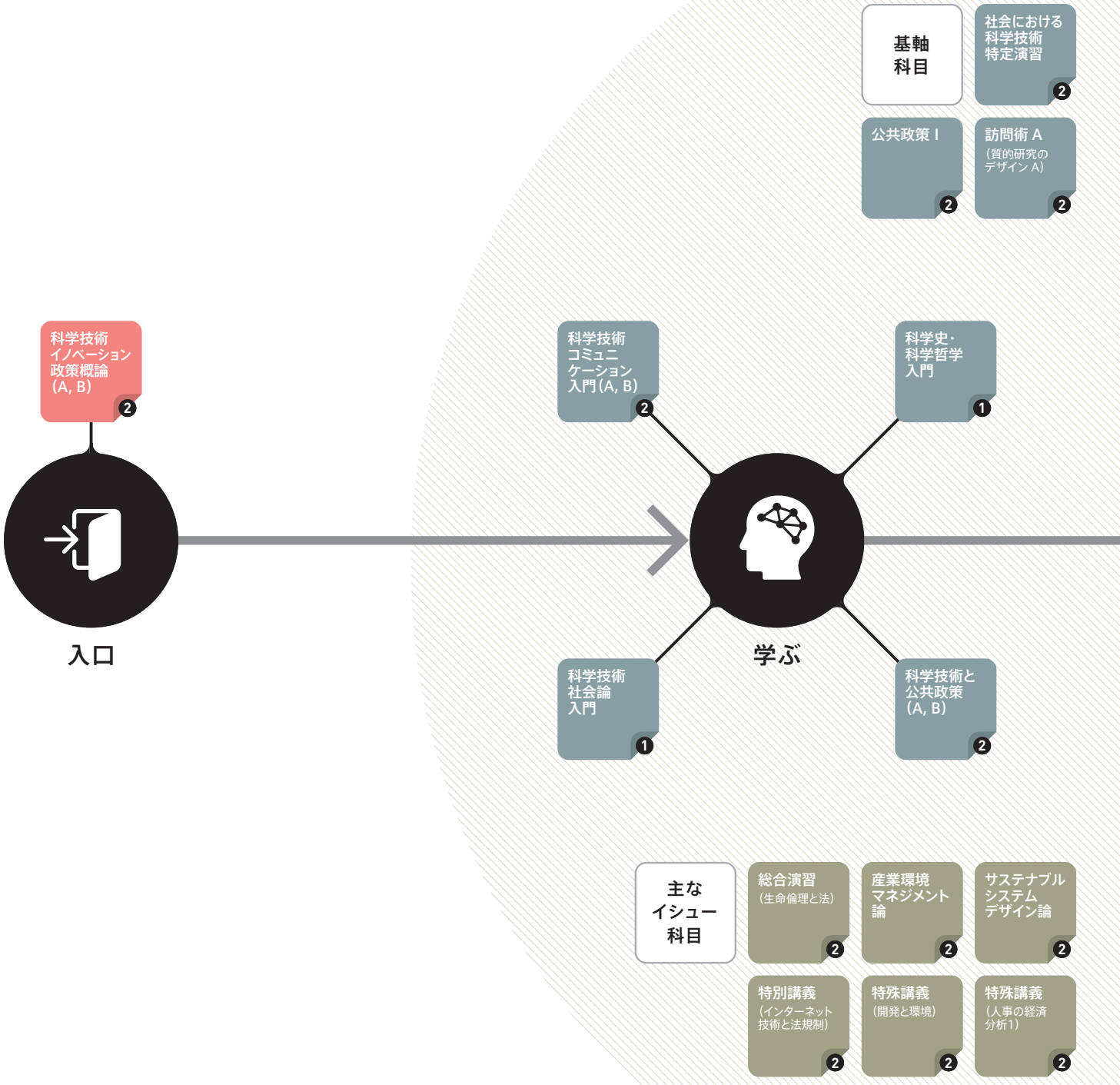
科学技術政策は、今まで研究者の視点に立った研究振興のための政策と考えられてきました。しかし、科学技術が社会の中に深く根付き、豊かさや便利さをもたらす重要な存在になってきた現代においては、科学技術政策の在り方も変わらなければなりません。つまり、社会にとって必要な科学技術、望ましい科学技術の振興のための政策が必要なのです。端的に言えば、「人々がどんな世界に生きたいと欲しているか」という問いに科学技術がどう答えるかを考える政策です。これをわれわれは「公共圏における科学技術政策」と呼んでいます。

この政策では、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められます。そこで不可欠なのは、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）をふくむ「科学技術への公共的関与（public engagement）」や「科学技術の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）」研究が生み出すエビデンス（根拠）です。

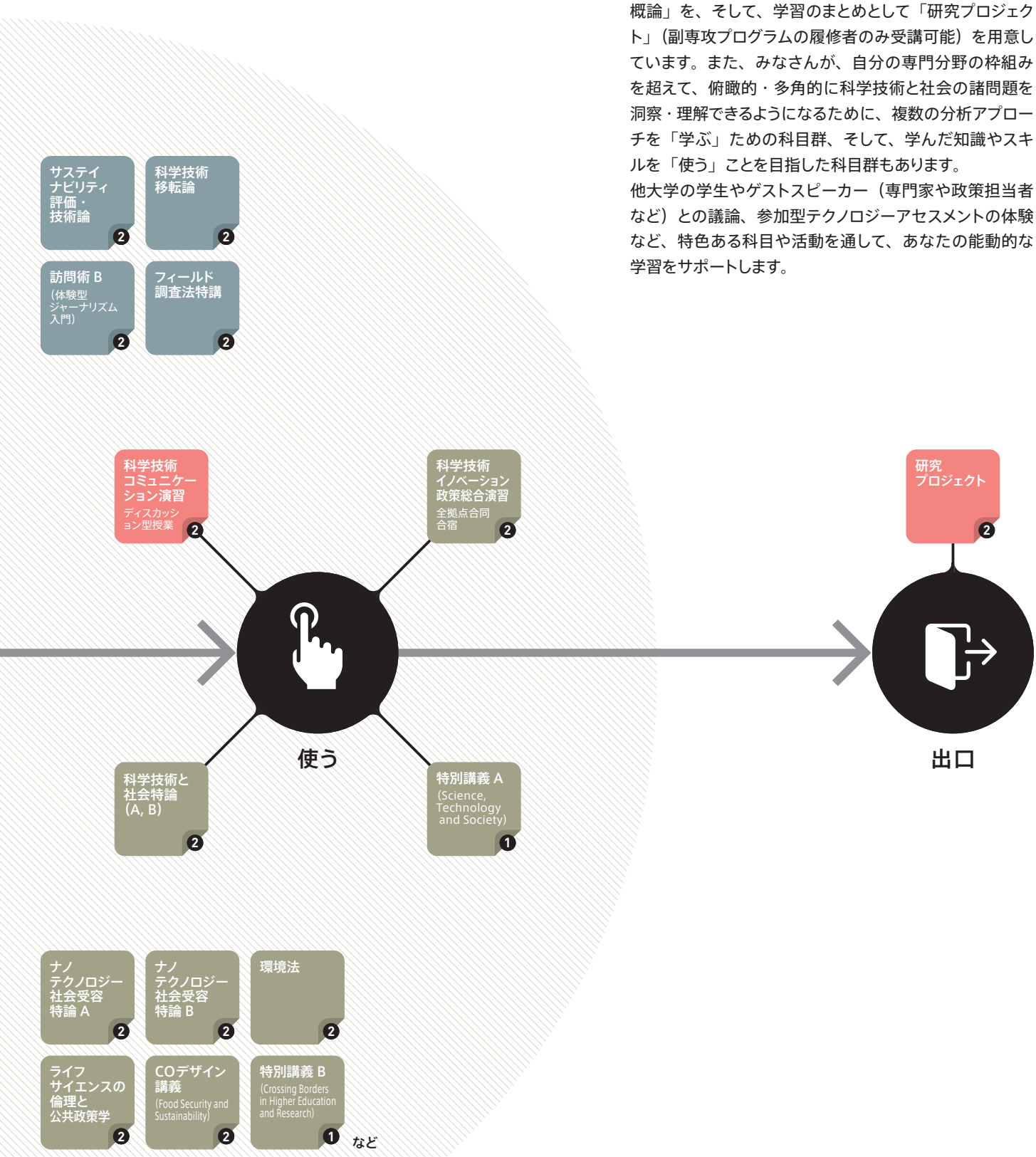
このような考え方に基づき、本プログラムは、ELSI に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、「学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。今求められているのは、自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材なのです。

なお、本プログラムは、文部科学省の「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」に選定された、大阪大学及び京都大学の連携による「公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）」の教育プログラムとして実施されます。

公共圏における科学技術政策プログラムの科目



科学技術政策、あるいは、科学技術と関連する公共政策を形成するためには、科学技術についての理解と社会についての理解の両方を視野に入れる必要があります。
本プログラムの入口として「科学技術イノベーション政策概論」を、そして、学習のまとめとして「研究プロジェクト」（副専攻プログラムの履修者のみ受講可能）を用意しています。また、みなさんが、自分の専門分野の枠組みを超えて、俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題を洞察・理解できるようになるために、複数の分析アプローチを「学ぶ」ための科目群、そして、学んだ知識やスキルを「使う」ことを目指した科目群もあります。
他大学の学生やゲストスピーカー（専門家や政策担当者など）との議論、参加型テクノロジーアセスメントの体験など、特色ある科目や活動を通して、あなたの能動的な学習をサポートします。



※副専攻プログラムの修了には、必修科目 6 単位、基軸科目から 2 単位以上、イシュー科目から 2 単位以上、合計で 14 単位以上の取得が必要です。この図では、必修科目を赤で、基軸科目を青で、イシュー科目を緑で表現しています。次のページ「本プログラムの学び方」にも説明があります。

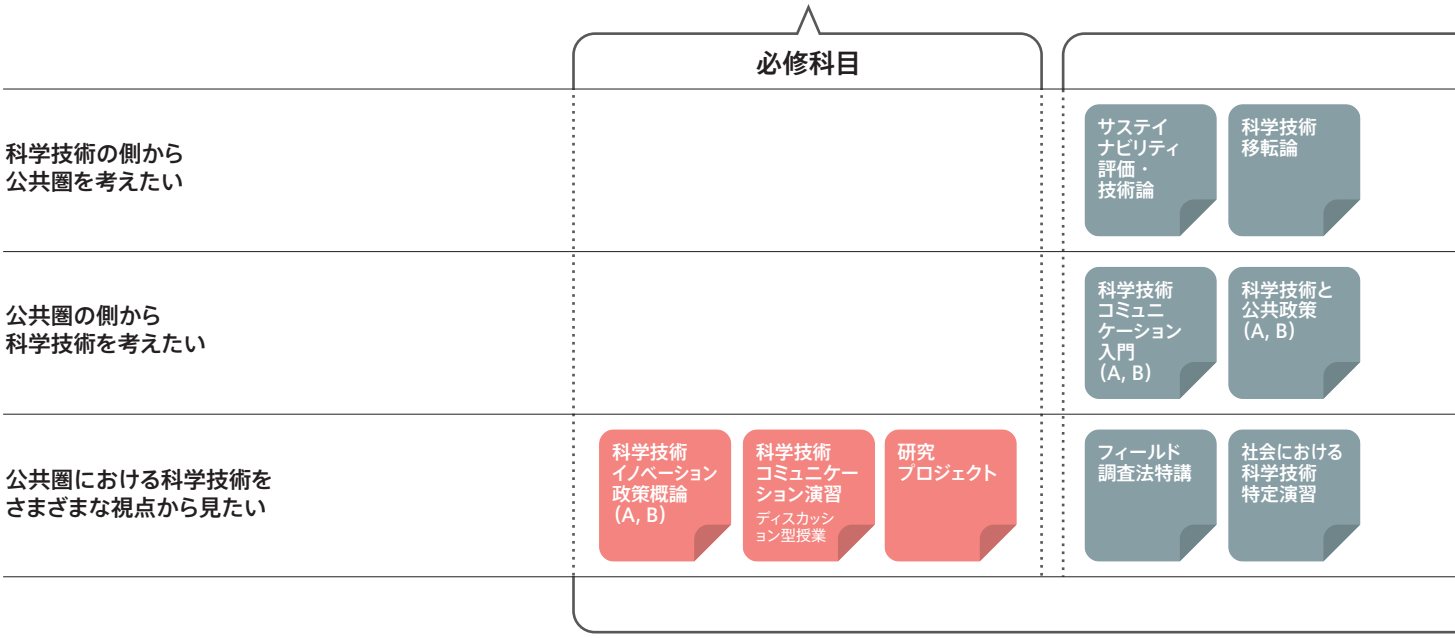
本プログラムの学び方

副専攻プログラム

公共圏における科学技術の
あり方をしっかり学ぶ

副専攻プログラムに履修登録して学ぶことで以下のようなメリットがあります。

- ●行政機関などへのインターンシップ支援
- ●現役行政官と共同で開催される政策ワークショップへの参加
- ●他大学の同プログラム履修者との合宿への参加
  （科学技術イノベーション政策総合演習）
- ●論文等作成のための少人数授業（研究プロジェクト）
- ●京大拠点の開講科目の単位認定
- ●プログラム修了認定証



アラカルト

自分の関心に合わせて
ピンポイントで学ぶ

公共圏における科学技術政策について、自分の関心に合わせて、ピンポイントで学びたい人のためのコースです。副専攻プログラムは履修できないけれど気になるという方は、試しにいくつかの授業を履修してみてください（ただし「科学技術イノベーション政策総合演習」と「研究プロジェクト」は、副専攻プログラム受講者の専用科目のため履修できません）。気に入った方は、年度初めに副専攻プログラムに変更できます。

「公共圏における科学技術政策」プログラムは「副専攻プログラム」として学ぶことも、「アラカルト」で自分の関心に合わせて学ぶこともできます（履修に関する詳細については、14 ページから 17 ページを参照）。

「副専攻プログラム」として、14 単位以上（必修科目：6 単位、選択科目：8 単位以上。選択科目 I（基軸科目群）および選択科目 II（イシュー科目群）から、それぞれ 2 単位以上を選択）を取得した場合には、プログラム修了認定証が授与されます（下図右上）。さらにインターンシップや政策ワークショップへの参加サポート、全国 5 拠点（本拠点のほか、政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学）の合同合宿への参加、京都大学で実施される該当科目の単位認定などの特典が得られます。

「アラカルト」で履修した場合も、入門必修科目（科学技術イノベーション政策概論）を含む 8 単位以上を取得した場合、高度副プログラムの修了が認定されます（下図右下）。

下の図で、空欄に気になる科目を当てはめていくと、あなただけの学び方が完成します。

必修科目

科学技術イノベーション政策概論（A, B） ＋ 科学技術コミュニケーション演習（ディスカッション型授業） ＋ 研究プロジェクト

選択科目

選択 1　選択 2　選択 3　選択 4

基軸科目（2 単位以上）

公共政策 I
科学史・科学哲学入門
科学技術社会論入門
訪問術 A（質的研究のデザイン A）
訪問術 B（体験型ジャーナリズム入門）

主なイシュー科目（2 単位以上）

ライフサイエンスの倫理と公共政策学
産業環境マネジメント論
サステナブルシステムデザイン論
ナノテクノロジー社会受容特論 A
ナノテクノロジー社会受容特論 B
総合演習（生命倫理と法）
特殊講義（開発と環境）
環境法
特別講義（インターネット技術と法規制）
COデザイン講義（Food Security and Sustainability）
科学技術イノベーション政策総合演習（全拠点合同合宿）
科学技術と社会特論（A, B）
特殊講義（人事の経済分析 1）
特別講義 A（Science, Technology and Society）
特別講義 B（Crossing Borders in Higher Education and Research）
など

自由選択

高度副プログラム

入門必修科目（科学技術イノベーション政策概論）を含む 8 単位以上を取得した方は、高度副プログラムの修了が認定されます。

科学技術イノベーション政策概論（A, B） ＋ 選択 1　選択 2　選択 3

特色ある科目

多様なゲストから、科学技術イノベーション政策に関する広範な論点を学ぶ

科学技術イノベーション政策概論（A,B）

科学技術がどのように発展し、どのように成果が利用されるか、どのようにして社会・人間にとって望ましい成果を生み出すかは、科学技術の研究開発や関連する政策における重要課題です。科学技術やイノベーションの「望ましさ」をどう実現したらよいか、そのためにはどのような問題を研究開発や政策形成において考えなくてはならないかを、科学技術の「倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues: ELSI）」の観点から多角的に学ぶことができます。
各回、科学技術の ELSI を専門とするゲスト講師による講義（90 分）と討論（90 分）を行います。

2017年度のゲスト講師とその回のテーマ

小林傳司（大阪大学　理事・副学長）
「社会的合意形成？ ～リスクコミュニケーションの在り方～」

小林俊哉（九州大学　准教授）
「科学技術政策論：「社会のための科学」という観点」

岸本充生（大阪大学　教授）
「レギュラトリーサイエンス論」

毎回、１つのテーマについて２時限連続でじっくり取り組みます

まだ「答え」の出ていない社会的な課題にチームで挑む

科学技術コミュニケーション演習

夏に開講している集中講義です。3 日間、1 つのテーマについて、じっくりと議論を重ねます。講義のテーマは例年、現在進行形の科学技術に関する社会的な課題を選んでいます。例えば、2017 年度のテーマは「高レベル放射性廃棄物の地層処分」。「この先、仮に現状の国策通りに進展するとした場合、具体的な地域の選定はどのように進めるべきか（もしくは、というより本質的には、そもそも論として現状の政策にどのような課題がありどう転換すべきか）」について、多様な研究科の大学院生が議論を重ねました。
専門分野ごとの、視点の多様性を理解すること、自分とは異なる分野に対する謙虚さをもつこと、“素人”とされる人々の視点も理解すること、「社会の中の科学技術」という視点を理解することなどが、この科目のねらいです。

過去に扱ったテーマ

「BSE 事件に伴って生じたアメリカ産牛肉輸入停止を解除するための条件とは何か」、「原子力発電所の再稼働に必要な条件について」、「地球温暖化問題に関する市民参加のあり方について」など

チームでの議論を通じて、専門分野ごとの視点の多様性を理解できます

STiPS が提供する科目群の中から、3 タイプの科目を詳しくご紹介します。副専攻プログラムで必修科目となっている「科学技術イノベーション政策概論（A, B）」「科学技術コミュニケーション演習」「研究プロジェクト」をピックアップしています。

副専攻プログラムの総仕上げ、研究論文の作成

研究プロジェクト

自らの専攻分野を生かしつつ、副専攻プログラムを通じて学んだ、科学技術イノベーションの社会的・政策的な側面についての知識をさらに深め、学術研究論文を作成する科目です。（＊この科目は、副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象とする必修科目です。）
具体的には、「政策のための科学」に関連した社会課題への解決に資する研究テーマを各自が設定して、人文学・社会科学的な手法を用いた調査および分析を行います。12 月には、京都大学と合同で、研究成果合同発表会も開催します。授業は、履修者・担当教員が一堂に会して研究進捗報告や研究指導を行うゼミ形式のものと、各々の研究テーマや進捗に合わせて行う個別指導形式のものとを組み合わせて実施しています。

過去に提出された論文の題名

「人工知能利用における受容態度と判断基準 ―若手研究者に対する探索的調査―」、「日本の食品問題において消費者の不安感に影響を与える要素の考察」、「福島第一原子力発電所事故における「市民測定」―福島市の事例をもとに―」など

提出された論文は年度ごとにまとめて製本しています

授業科目以外の学びの場

STiPS は、大学の知と社会の知をつなぐ「社学連携」の実践活動も行なっています。このような「授業科目以外の学びの場」もぜひ活用してください。

STiPS Handai 研究会

学内外の研究者や実務家をゲストにお招きする研究会を大阪大学内で開催しています。学生だけでなく教員も相互に学び合うことを目的としています。学内／学外、学生／教員を問わず、誰でも参加できます。

ナレッジキャピタル超学校：大阪大学COデザインセンター × ナレッジキャピタル「対話で創るこれからの『大学』」

ナレッジキャピタルと共同で開催する対話シリーズ「対話で創るこれからの『大学』」を 2016 年度より開催しています。様々な分野の研究者と社会の中でさまざまな新しい価値をつくり出している実践者との対談形式で進める対話プログラムです。

サイエンスカフェ@千里公民館

2017 年度より豊中市立千里公民館と共同でサイエンスカフェを開催しています。科学技術が社会の中でどのように扱われるのか、研究者と一般参加者とで語り合います。2017 年度は 3 回のサイエンスカフェを実施しました。

履修モデルケース

専門分野との相乗効果を狙う。

○工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 S.K.さん

S.K. さんは、研究の合間の隙間の時間をうまく活用して STiPS に参加していました。所属しているビジネスエンジニアリング専攻との学びにおける相乗効果も大きかったそうです。STiPS のレポート作成のために、文献を探し読み込む時間をできるだけ作るようにしていたそうです。

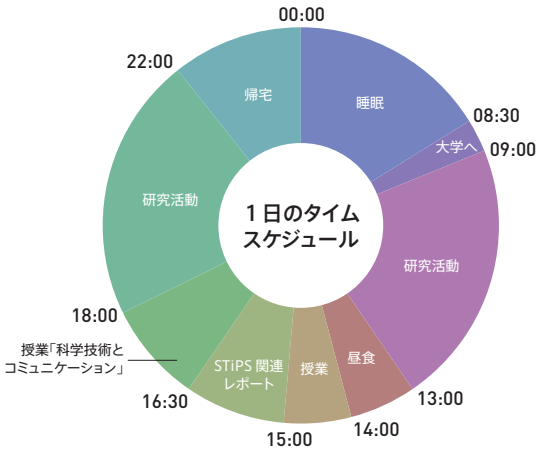
受講した科目

必修科目

- 科学技術イノベーション政策概論
- 科学技術イノベーション政策特別演習（ディスカッション型授業）
- 研究プロジェクト

選択科目

- 科学技術イノベーション政策総合演習（全拠点合同合宿）
- 科学技術と社会特論（ホットイシュー）
- 科学技術とコミュニケーション
- 公共政策 I



卒業後の進路に活かすことを狙い学ぶ。

○理学研究科生物科学専攻 R.O.さん

マスメディア (テレビ局) への就職が決まっていたので、STiPS の授業だけでなく、講師を交えた懇親会にも参加して、各方面の第一線で活躍する方々との交流も深めることを心がけていた R.O. さん。主専攻の研究に、STiPS の「研究プロジェクト」にと忙しくても、将来自分がやりたいとおもっていることと繋がっていたので、とても楽しかったそうです。

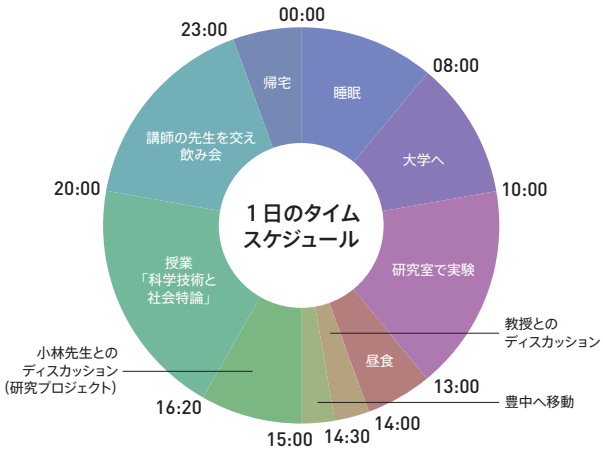
受講した科目

必修科目

- 科学技術イノベーション政策概論
- 科学技術イノベーション政策特別演習（ディスカッション型授業）
- 研究プロジェクト

選択科目

- 科学技術イノベーション政策総合演習（全拠点合同合宿）
- 科学技術と社会特論（ホットイシュー）
- 産業環境マネジメント論
- ライフサイエンスの倫理と公共政策



「履修してみたいけど、研究スタイルやライフスタイルを考えると難しいかも」、「自分のキャリアプランに合った科目はあるのかな」とお悩みのあなた。ここでは、授業の開講キャンパス / 時期やキャリアプランに合わせて、副専攻プログラムの選択科目を履修する際の STiPS 修了生 4 人の受講パターンを用意しました。受講パターンを参考に、あなたの生活や目的に合わせて、自由にカスタマイズして下さい。（所属・科目名は、修了当時のものです。現在の科目名、内容とは異なっている場合があります。自分自身がどのパターンに当てはまりそうか、その場合はどのような履修パターンが良いか、どの科目を選択すべきか、STiPS の教員に相談するのも良いでしょう。）

多角的な視点と柔軟な発想力を養う。

○工学研究科機械工学専攻 N.H.さん

主専攻を土台に、STiPS で培った多角的な視点と柔軟な発想力を強みとするエンジニアとして成長したい、そんな思いを持っていた N.H. さん。主に吹田キャンパスで忙しい研究生活を送っていたので、平日の豊中キャンパス、吹田キャンパスの移動を減らし効率的に時間を活用するために、土日や長期休暇中に開講される集中講義形式の授業を積極的に受講するように工夫したそうです。

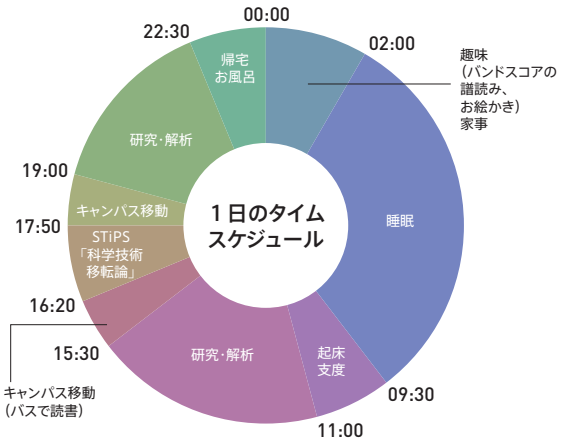
受講した科目

必修科目

- 科学技術イノベーション政策概論
- 科学技術コミュニケーションの理論と実践（ディスカッション型授業）
- 研究プロジェクト

選択科目

- 科学技術とコミュニケーション
- 科学技術イノベーション政策総合演習（全拠点合同合宿）
- 科学技術移転論
- ライフサイエンスの倫理と公共政策
- ライフサイクル工学



雰囲気の違った授業で気持ちにメリハリをつける。

○文学研究科文化形態論専攻 T.Y.さん

T.Y. さんのスケジュールで目をひくのは、午後に 3 コマ続く演習の授業です。「文学研究科の二つの演習は、現場に出て考えてみよう、というオープンな雰囲気の授業。STiPS の「総合演習 (生命倫理と法)」はそれとはまた違って、ばしっとした雰囲気が感じられる授業です。その雰囲気の違いを楽しんでいます。」とのこと。授業の中身で気持ちにメリハリをつけているようです。

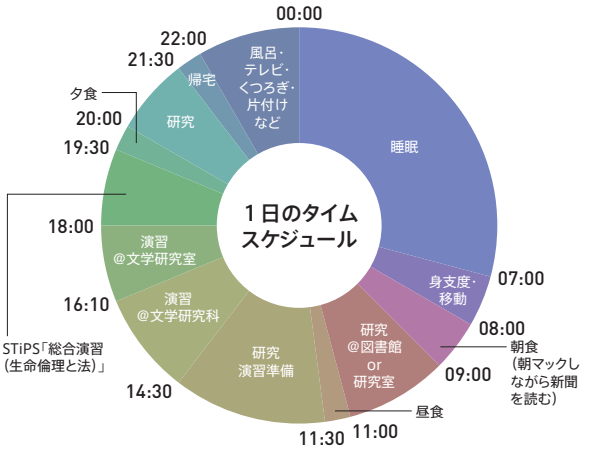
受講した科目

必修科目

- 科学技術イノベーション政策概論
- 科学技術コミュニケーションの理論と実践（ディスカッション型授業）
- 研究プロジェクト

選択科目

- 公共政策 I
- 科学技術と公共政策
- 総合演習（生命倫理と法）
- 科学技術社会論基礎



学生インタビュー

主専攻とSTiPSの間で、良い「相互作用」がありました。

垣本伊守幹さん （文学研究科文化形態論専攻博士前期課程２年）

履修を検討しはじめた頃、副専攻はとても忙しいという噂を聞き、主専攻とバランスをとるのは難しいのでは、と心配していました。でも、STiPS の先生に履修相談をすると、私の状況をふまえて具体的なアドバイスをして下さいました。一番勇気付けられたのは、「STiPS は『科学技術と社会をつなぐ』ということがテーマで、理系の人にこそ積極的にとってほしい」と先生がおっしゃったことです。STiPS には博士課程の人だけでなく私と同じ修士課程の先輩がいることも安心材料になりました。

STiPS の授業で、大学内外の専門家の方々や、他大学の学生など、さまざまなバックグラウンドを持つ人とディスカッションする経験をとおして、自分自身の興味関心の幅が広くなったと実感しています。STiPS を受講する前に比べ、普段自分が触れている情報を、より「自分のこと」として捉えられるようになりました。また、主専攻に対する自分自身の視点の置き方が変化してきているようにも感じています。将来についてはまだ検討中ですが、もし医療関係の仕事に就くとしても、自分自身が医療者である前に市民であるということを意識して仕事をしていくことができれば、と考えるようになりました。

STiPSによって、自分自身の「問題意識」が明確になりました。

吉田篤さん （理学研究科生物科学専攻博士前期課程１年）

「公共圏における科学技術政策」に興味はあっても、「どんな人が集まってくるんだろう」、「だいぶ専門と違うけど、ついていけるのかな」と不安を抱える人もいると思います。実際に STiPS の受講生は、どのような思いを抱いて受講をしたのでしょうか。また STiPS のプログラムについて、どのように感じたのでしょうか。ここでは 3 人の受講生の声を聴いてみましょう。

STiPSの教員に個別相談し、履修に関する不安はなくなりました。

三原明穂さん （医学系研究科保健学専攻博士前期課程 1 年）

僕は STiPS をとおして、自分自身が主専攻で取り組んでいる「科学と社会」というテーマについて、実際に理系で研究に取り組んでいる人たちに自分の意見をぶつけてみたいと考えていました。「研究プロジェクト」では、自分の取り組んでいるテーマを発表し、フィードバックをもらう場が定期的に設定されています。僕の所属は文学研究科なので、理系の人から直接意見をもらう機会はとても貴重でした。予想以上にお互いの共通の言語で話すということが難しい、と感じ、表現に工夫をするなど、試行錯誤を通じてコミュニケーションスキルが磨かれたと思います。また「研究プロジェクト」は個別指導なので、先生方にきめ細かくアドバイスをもらうこともできました。スケジュール管理の面でも、主専攻とのバランスを見ながらケアをしてもらえ、安心感につながりました。

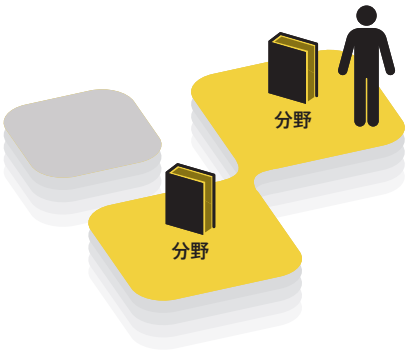
STiPS のメンバーと読書会を企画したことも印象に残っています。STiPS 自体がやりがいのあるプログラムですが、そこに集まってきている学生は、「こんなことをやってみたい」と投げかけてみたらポジティブな反応が返ってくるような、知的好奇心にあふれた人たちだと思います。

STiPS を受講するまでは、どちらかというと専門性を磨くことに重点を置いて学んでいましたが、一方で「このままでいいのかな」という気持ちも持っていました。もともと僕は、理系の学部に所属しながらも文系のことを学びたいとずっと考えていたのです。しかし、研究というレベルとなるとさすがに個人の力では難しい、と感じていました。STiPS で新しい刺激を得ることは自分自身の「このままでいいのかな」という気持ちを解消する良い機会になるかもしれない、と思いました。

授業では「科学技術イノベーション政策概論」が興味深かったです。大学の内外問わずさまざまな分野の専門家によるリレー講義で、幅広い問題を俯瞰できる視野を開いてもらえました。また「特別講義：Crossing Borders in Higher Education and Research」は、留学生も多く参加しており、グローバルな視点でディスカッションできたことが非常に良い経験になりました。

今は、自分なりに何が問題なのかはっきりしてきた、という感覚があります。さらにどのように解決策を立案していくか、ということをより深く考えたいと思うようになっています。

プログラム修了生のキャリアパスの例

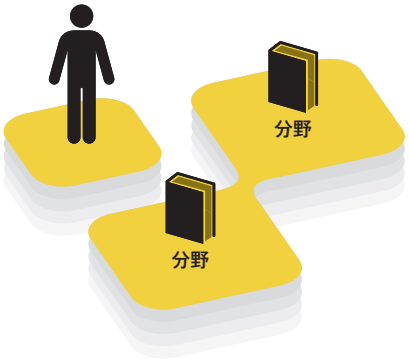


他分野とつながる研究者

分野を超えた協働がますます盛んになっています。そのような研究の変化に対応するため、科学技術政策はどうあるべきでしょうか。他の専門分野の学生や教員との双方向の議論を通じて、今後の研究に関する政策形成にも貢献できる研究者を育成します。

社会とつながる研究者

社会における科学技術の在り方が問われています。今後、科学技術と社会が調和していくために、どのような科学技術政策が必要でしょうか。企業、行政、市民など、多様なステークホルダーとの双方向の議論を通じて、社会と向き合いながら研究を担う研究者を育成します。同様に、社会の側に立ち、自らの専門性だけでなく、他分野の科学技術の専門家とつながりながら、公共的な問題に取り組む人材の育成も目指します。



分野と分野をつなげる人材

異なる分野間を「つなぐ」専門家が注目されています。研究プロジェクトの企画や進捗管理、関係法令等の精査、会計・財務・設備管理、特許申請等研究成果のまとめ・活用促進など、幅広い業務が含まれます。研究現場や社会を俯瞰し、次の一手を打つ人材を育成します。

社会と分野をつなげる人材

科学技術政策の形成において、社会の多様な主体の関与が求められています。異領域（研究者集団・政策・産業・市民社会）の間のコミュニケーションを媒介する実践的な人材や、科学技術と社会の関係、あるいは、科学技術政策そのものを研究する人材を育成します。また、それらの経験に基づき、実際に行政に携わる人材の育成も目指します。

副専攻／高度副プログラム

「公共圏における科学技術政策」について

副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」について

▽副専攻プログラムの趣旨

大阪大学では、平成23年度から大学院副専攻プログラム制度が始まりました。これは、所属する研究科（主専攻）と異なる視点、学際的な視点、俯瞰的な視点といった複眼的視野の涵養のため、教育目標に沿って、主専攻に準ずるまとまりのある高度な専門的素養又は幅広い分野の素養を培うための大学院生に特化したプログラムです。

プログラムに定める修了の要件を満たすことで、副専攻プログラム修了認定証が授与されます。

▽副専攻プログラムの概要

COデザインセンターは「公共圏における科学技術政策」という副専攻プログラムを提供しています。このプログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。

なお、本プログラムは、文部科学省の「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」に選定された、大阪大学及び京都大学の連携による「公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）」の教育プログラムとして実施されます。

また、本プログラムでは、京都大学で実施される該当科目の履修により、単位を修得できるほか、その他の「科学技術イノベーション「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」（政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学）との合同イベント等への参加支援を受けることができます。

▽副専攻プログラムの修了要件

本プログラム修了には、必修科目6単位および選択科目8単位以上の計14単位以上の修得が必要です。選択科目は、「基軸科目群」および「イシュー科目群」から、それぞれ2単位以上を履修して下さい。

本プログラムの修了に必要な単位と所属専攻の修了に必要な単位との重複が認められるかどうかは、研究科によって異なります。履修希望者は、事前に指導教員や所属研究科の大学院担当窓口に必ず相談して下さい。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に、副専攻プログラムの場合は最低7単位を当該プログラムのためのみの単位として修得する必要があります。

▽副専攻プログラム科目について

詳細は本冊子p.18以降を参照して下さい。

▽特記事項

障がい等により、各科目の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属のまたは開講部局の教務関係窓口（教務係、大学院係など）に事前に相談するとともに、初回授業等、早期に授業担当教員に申し出て下さい。

▽副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」科目一覧

科目カテゴリー		開講部局（課程）	授業科目名	単位	学期	ページ
入門必修科目（2単位）		COデザインセンター（院）	科学技術イノベーション政策概論A	1	春	18
		COデザインセンター（院）	科学技術イノベーション政策概論B	1	夏	19
必修科目（2単位）		COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション演習	2	集中（夏）	20
連携必修科目（2単位）		COデザインセンター（院）	研究プロジェクト	2	通年	21
選択科目： 8単位以上 （選択科目IおよびIIから、それぞれ2単位以上を履修）	選択科目I： 基軸科目群	COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション入門A	1	春（豊中）	22
		COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション入門B	1	冬（豊中）	23
		COデザインセンター（院）	科学史・科学哲学入門	1	夏	24
		COデザインセンター（院）	科学技術社会論入門	1	春	25
		COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策A	1	秋	26
		COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策B	1	冬	27
		COデザインセンター（院）	訪問術A（質的研究のデザインA）	2	春	28
		COデザインセンター（院）	訪問術B（体験型ジャーナリズム入門）	2	夏	29
		人間科学研究科（博士前期）	フィールド調査法特講	2	不開講	
		人間科学研究科（博士前期）	社会における科学技術特定演習	2	秋～冬	30
		工学研究科（博士前期）	サステイナビリティ評価・技術論	2	春～夏	31
		基礎工学研究科（博士前期）	科学技術移転論	2	秋～冬	32
		国際公共政策研究科（博士前期）	公共政策I	2	秋～冬	33
	選択科目II： イシュー科目群	COデザインセンター（院）	科学技術イノベーション政策総合演習	2	集中（夏）	34
		COデザインセンター（院）	科学技術と社会特論A	1	秋	35
		COデザインセンター（院）	科学技術と社会特論B	1	冬	36
		COデザインセンター（院）	特別講義A（Science, Technology and Society）	1	夏	37
		COデザインセンター（院）	特別講義B（Crossing Borders in Higher Education and Research）	1	秋	38
		COデザインセンター（院）	COデザイン講義（Food Security and Sustainability）	2	春～夏	39
		法学部	特別講義（インターネット技術と法規制）	2	秋～冬	40
		法学研究科（博士前期）	総合演習（生命倫理と法）	2	秋～冬	41
		法学研究科（博士後期）	特定研究（生命倫理と法）	2	秋～冬	41
		医学系研究科（博士前期）	ライフサイエンスの倫理と公共政策学	2	集中（夏）	42
		工学研究科（博士前期）	産業環境マネジメント論	2	春～夏	43
		工学研究科（博士前期）	サステナブルシステムデザイン論	2	春～夏	44
		基礎工学研究科（博士前期） （ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論A	2	春～夏	45
		基礎工学研究科（博士前期） （ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論B	2	不開講	
		国際公共政策研究科（博士前期）	環境法	2	春～夏	46
		国際公共政策研究科（博士後期）	特殊研究（環境法）	2	春～夏	46
		国際公共政策研究科（博士前期）	特殊講義（開発と環境）	2	秋～冬	47
		国際公共政策研究科（博士後期）	特殊研究（開発と環境）	2	秋～冬	47
		国際公共政策研究科（博士前期）	特殊講義（人事の経済分析1）	2	通年	48
		国際公共政策研究科（博士後期）	プロジェクト演習（人事の経済分析3）	2	通年	48

▽副専攻プログラムの履修申請

1. 履修希望者は、下記の日時で開催予定の副専攻／高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」説明会に参加して下さい。

   日時：4月11日（水）18:00～19:00

   場所：全学教育推進機構ステューデントコモンズ（2階）セミナー室A

2. 履修希望者は、下記の期日までにメールにて申請書類を提出下さい。申請書類は、上記説明会で案内するほか、COデザインセンターウェブサイト内の「副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」のページより入手して下さい。（http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/program/sub-stips.html）

   日時：4月18日（水）16:00締切

   提出先：stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp

3. 面接日時は、申請書受理後、4月19日(木)、20日(金) 両日とも午後から実施します。両日不可の者は、個別相談の上、決定いたします。

高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」について

▽高度副プログラムの趣旨

大阪大学では、平成20年度から大学院等高度副プログラム制度が始まりました。これは、大学院生および6年制課程の学部5、6年次を対象に、幅広い分野の知識と柔軟な思考能力を持つ人材など、社会において求められる人材の多様な要請に対応する取組として、教育目標に沿って、一定のまとまりを有する授業科目により構成され、体系的に履修することができるプログラムです。

これによって、所定の単位を修得した学生には高度副プログラム修了認定証が授与されます。

▽高度副プログラムの概要

COデザインセンターは「公共圏における科学技術政策」という高度副プログラムを提供しています。このプログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。

なお、本プログラムは、文部科学省の「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」に選定された、大阪大学及び京都大学の連携による「公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）」の教育プログラムとして実施されます。

▽高度副プログラムの修了要件

本プログラム修了には、必修科目2単位および選択科目6単位以上の計8単位以上の修得が必要です。本プログラムの修了に必要な単位と所属専攻の修了に必要な単位との重複が認められるかどうかは、研究科によって異なります。履修希望者は、事前に指導教員や所属研究科の大学院担当窓口に必ず相談して下さい。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に、高度副プログラムの場合は最低4単位を当該プログラムのためのみの単位として修得する必要があります。

▽高度副プログラム科目について

詳細は本冊子p.18以降を参照して下さい。

▽特記事項

障がい等により、各科目の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属のまたは開講部局の教務関係窓口（教務係、大学院係など）に事前に相談するとともに、初回授業等、早期に授業担当教員に申し出て下さい。

▽高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」科目一覧

科目カテゴリー	開講部局（課程）	授業科目名	単位	学期	ページ
必修科目（2単位）	COデザインセンター（院）	科学技術イノベーション政策概論A	1	春	18
	COデザインセンター（院）	科学技術イノベーション政策概論B	1	夏	19
選択科目：6単位以上	COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション演習	2	集中（夏）	20
	COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション入門A	1	春（豊中）	22
	COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション入門B	1	冬（豊中）	23
	COデザインセンター（院）	科学史・科学哲学入門	1	夏	24
	COデザインセンター（院）	科学技術社会論入門	1	春	25
	COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策A	1	秋	26
	COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策B	1	冬	27
	COデザインセンター（院）	訪問術A（質的研究のデザインA）	2	春	28
	COデザインセンター（院）	訪問術B（体験型ジャーナリズム入門）	2	夏	29
	人間科学研究科（博士前期）	フィールド調査法特講	2	不開講	
	人間科学研究科（博士前期）	社会における科学技術特定演習	2	秋～冬	30
	工学研究科（博士前期）	サステイナビリティ評価・技術論	2	春～夏	31
	基礎工学研究科（博士前期）	科学技術移転論	2	秋～冬	32
	国際公共政策研究科（博士前期）	公共政策I	2	秋～冬	33
	COデザインセンター（院）	科学技術と社会特論A	1	秋	35
	COデザインセンター（院）	科学技術と社会特論B	1	冬	36
	COデザインセンター（院）	特別講義A（Science, Technology and Society）	1	夏	37
	COデザインセンター（院）	特別講義B（Crossing Borders in Higher Education and Research）	1	秋	38
	COデザインセンター（院）	COデザイン講義（Food Security and Sustainability）	2	春～夏	39
	法学部	特別講義（インターネット技術と法規制）	2	秋～冬	40
	法学研究科（博士前期）	総合演習（生命倫理と法）	2	秋～冬	41
	法学研究科（博士後期）	特定研究（生命倫理と法）	2	秋～冬	41
	医学系研究科（博士前期）	ライフサイエンスの倫理と公共政策学	2	集中（夏）	42
	工学研究科（博士前期）	産業環境マネジメント論	2	春～夏	43
	工学研究科（博士前期）	サステナブルシステムデザイン論	2	春～夏	44
	基礎工学研究科（博士前期）（ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論A	2	春～夏	45
	基礎工学研究科（博士前期）（ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論B	2	不開講	
	国際公共政策研究科（博士前期）	環境法	2	春～夏	46
	国際公共政策研究科（博士後期）	特殊研究（環境法）	2	春～夏	46
	国際公共政策研究科（博士前期）	特殊講義（開発と環境）	2	秋～冬	47
	国際公共政策研究科（博士後期）	特殊研究（開発と環境）	2	秋～冬	47
	国際公共政策研究科（博士前期）	特殊講義（人事の経済分析1）	2	通年	48
	国際公共政策研究科（博士後期）	プロジェクト演習（人事の経済分析3）	2	通年	48

▽高度副プログラムの履修申請

KOANの受講ガイダンス機能を利用して申請して下さい。

（https://koan.osaka-u.ac.jp/）

・受付期間：4月2日（月）～4月27日（金）

・KOAN掲示板も参照して下さい。

科学技術イノベーション政策概論A

開講科目名	科学技術イノベーション政策概論A
単位数	1単位　　**授業形態**　講義科目　　**開講言語**　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Science, Technology and Innovation Policy A
時間割コード	3B2701
定員	30人
担当教員	平川　秀幸、他
対象所属・年次	全研究科大学院学生
開講区分･曜日･時間	春学期　隔週水曜5・6限　授業開始日（4月11日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室A
キーワード	科学技術イノベーション、科学技術政策、生命科学の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）
授業の目的・概要	科学技術がどのように発展し、どのように成果が利用されるか、どのようにして社会・人間にとって望ましい成果を生み出すかは、科学技術の研究開発や関連する政策における重要課題である。本科目では、科学技術やイノベーションの「望ましさ」をどう実現したらよいか、そのためにはどのような問題を研究開発や政策形成において考えなくてはならないかを、科学技術の「倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues: ELSI）」の観点から、これら課題の研究を専門とするゲスト講師による講義と討論を通じて多角的に学ぶ。
学習目標	社会・人間にとって望ましい科学技術の発展や利用を実現するためには、どのような問題・課題を検討しなくてはならないかを、次の観点から洞察し、説明できるようになる。 ・社会・人間にとっての善悪等の価値規範に関わる倫理的な課題 ・基本的人権の保護等に関わる法的課題 ・科学技術の発展・利用がもたらす社会構造・社会秩序の変動に関わる社会的課題（社会格差、社会的排除など）
授業計画	初回のオリエンテーション以降は、各回2時限連続で、科学技術の発展･利用が社会･人間にもたらす問題･課題について、それぞれ倫理的観点、法的観点、社会的観点から考えるために、ゲストの専門家による講義（90分）と討論（90分）を行い、最終回は全体を振り返っての総合討論を行う。対象となる科学技術の分野としては、ELSIに関する研究や政策が最も早くから行われてきた生命科学を取り上げる。（第2回・第3回～第6回・第7回の日程は目安。2018年4月までに決定しKOANで示す。） 第1回 オリエンテーション　4月11日 第2回・第3回 生命科学の倫理的課題　4月25日 第4回・第5回 生命科学の法的課題　5月9日 第6回・第7回 生命科学の社会的課題　5月23日 第8回 総合討論　6月6日
授業外における学習	各回の授業後に、復習を兼ねた短いレポートを作成し、提出する。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	特に指定しない。
参考文献	講義において適宜、指定する。
成績評価	出席とレポート等による。
特記事項	本科目は、副専攻プログラム･高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」における必修科目である。詳細は本冊子p.2-5を参照のこと。

科学技術イノベーション政策概論B

開講科目名	科学技術イノベーション政策概論B
単位数	1単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Science, Technology and Innovation Policy B
時間割コード	3B2702
定員	30人
担当教員	平川　秀幸、他
対象所属・年次	全研究科大学院学生
開講区分･曜日･時間	夏学期　隔週水曜5・6限　授業開始日（6月13日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室A
キーワード	科学技術イノベーション、科学技術政策、情報科学技術の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）
授業の目的・概要	科学技術がどのように発展し、どのように成果が利用されるか、どのようにして社会・人間にとって望ましい成果を生み出すかは、科学技術の研究開発や関連する政策における重要課題である。本科目では、科学技術やイノベーションの「望ましさ」をどう実現したらよいか、そのためにはどのような問題を研究開発や政策形成において考えなくてはならないかを、科学技術の「倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues: ELSI）」の観点から、これら課題の研究を専門とするゲスト講師による講義と討論を通じて多角的に学ぶ。
学習目標	社会・人間にとって望ましい科学技術の発展や利用を実現するためには、どのような問題・課題を検討しなくてはならないかを、次の観点から洞察し、説明できるようになる。 ・社会・人間にとっての善悪等の価値規範に関わる倫理的な課題 ・基本的人権の保護等に関わる法的課題 ・科学技術の発展・利用がもたらす社会構造・社会秩序の変動に関わる社会的課題（社会格差、社会的排除など）
授業計画	初回のオリエンテーション以降は、各回2時限連続で、科学技術の発展･利用が社会･人間にもたらす問題･課題について、それぞれ倫理的観点、法的観点、社会的観点から考えるために、ゲストの専門家による講義（90分）と討論（90分）を行い、最終回は全体を振り返っての総合討論を行う。対象となる科学技術の分野としては、深層学習などの技術発展により急速に社会（産業・ビジネス・日常生活等）を変えつつある人工知能技術やビッグデータ利用など情報科学技術を取り上げる。第2回・第3回～第6回・第7回の日程は目安。2018年4月までに決定しKOANで示す。） 第1回 オリエンテーション　6月13日 第2回・第3回 情報科学技術の倫理的課題　6月27日 第4回・第5回 情報科学技術の法的課題　7月18日 第6回・第7回 情報科学技術の社会的課題　7月25日 第8回 総合討論　8月1日
授業外における学習	各回の授業後に、復習を兼ねた短いレポートを作成し、提出する。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	特に指定しない。
参考文献	講義において適宜、指定する。
成績評価	出席とレポート等による。
特記事項	本科目は、副専攻プログラム･高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」における必修科目である。 詳細は本冊子p.2-5を参照のこと。

科学技術コミュニケーション演習

開講科目名	科学技術コミュニケーション演習
単位数	2単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Science, Technology and Communication Seminar
時間割コード	3B2504
定員	30人
担当教員	平川　秀幸、工藤　充、他
対象所属・年次	全研究科大学院学生
開講区分･曜日･時間	集中（夏）　9月26日（水）、27日（木）、28日（金）1限～5限
開講場所	豊中キャンパス：総合棟Ⅰ3階341（COデザインスタジオ）
キーワード	パブリックアクセプタンス、異分野間コミュニケーション、科学技術の社会的責任
授業の目的・概要	近年では再生医療をはじめとする生命技術や遺伝子組み換え技術、地球温暖化問題やエネルギー政策など多種多様な科学技術をめぐる課題において、先端科学技術と社会の関係に円滑さを欠く事態となりつつある。これに対しては、国内では講演会の実施やわかりやすいパンフレットの作成等のいわゆるPA（Public Acceptance）活動が行われてきたが、その有効性が限定的であり、「科学技術と社会の新たな関係構築」が必要であることが強く認識されつつある。 本演習では、研究の細分化により生じている専門家間のコミュニケーションの困難さを実感すると同時に、異なる専門知識や背景を持つ人々とのコミュニケーションの作法を獲得することを目的とする。 2018年度は具体的トピックとして、2011年3月の東日本大震災で発生した東京電力福島第一原子力発電所事故による被災地域からの避難と賠償の問題を取り上げる。
学習目標	異なる研究科の学生による具体的な科学技術的テーマをめぐる相互討論を行い、ディスカッションを通じて、課題となる科学技術と社会のかかわりについて理解する。その上で、自らの専門性をふまえた上での主張および応答ができる。
授業計画	9月26日（水）1限～5限 第1回　講義：科学技術コミュニケーションとはなにか 第2・3回　演習：具体的なコミュニケーション手法についての実技 第4・5回　講義・演習：テーマの提示とその背景についての説明およびグループ討議 9月27日（木）1限～5限 第6回　テーマに対する自らの見解の発表とグループ討議 第7回　全体討議 第8・9回　専門家に向けたkey-Questionsの作成 第10回　key-Questionsの発表と全体討議 9月28日（金）1限～5限 第11・12回　key-Questionsに基づく専門家との質疑応答 第13・14回　専門家との質疑応答をふまえたグループ討議 第15回　発表と全体討議
授業外における学習	第1回ガイダンス時に、今年度のテーマについてのレクチャーを行う。そこで課される課題について、自らの見解をとりまとめた上で、グループ討議に臨む。 また、授業時間内でのグループ討議の時間は限られるため、授業時間外でのメンバー間の作業・討議時間の確保が望まれる。
履修条件・受講条件	特になし。 科学技術についての専門知識は必須ではない。人文社会科学系の学生の履修も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	小林傳司『トランス・サイエンスの時代』（NTT出版、2007年）。その他は授業時に適宜紹介する。
成績評価	出席点、講義への貢献度、講義中に課すレポートおよび最終レポートにより評価する。
特記事項	＜過去のテーマ例＞「BSE事件に伴って生じたアメリカ産牛肉輸入停止を解除するための条件とは何か」、「原子力発電所から生じる高レベル放射性廃棄物の地層処分の是非について」、「地球温暖化問題に関する市民参加のあり方について」

研究プロジェクト

開講科目名	研究プロジェクト
単位数	2単位 ｜授業形態｜ 演習科目 ｜開講言語｜ 日本語
開講科目名(英)	Research Project
時間割コード	3B2704
定員	10人
担当教員	平川　秀幸、他
対象所属・年次	全研究科大学院学生（副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象）
開講区分･曜日･時間	通年　月1回　水曜5・6限　授業開始日（4月18日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室A、他
キーワード	政策のための科学、倫理的・法的・社会的課題（ELSI）
授業の目的・概要	副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」における学習の総括として、それまでに同副専攻プログラムを通じて学んだ、科学技術イノベーションの社会的・政策的な側面についての知識をさらに深め、定着させることを目的とし、通年の研究プロジェクトを実施する。具体的には、「政策のための科学」に関連した社会課題への解決に資する研究テーマを各自が設定し、人文学・社会科学的な手法を用いた調査および分析を行う。研究の成果は、12月に行われる研究成果合同発表会（大阪大学・京都大学の合同開催）の場において口頭発表を行い、また、成果をまとめた学術研究論文を作成する。授業は、履修者・担当教員が一堂に会して研究進捗報告や研究指導を行うゼミ形式のものと、各々の研究テーマや進捗に合わせて行う個別指導形式のものとを組み合わせて実施する。
学習目標	1）「政策のための科学」に関連した社会課題を特定することができる。 2）1で特定した社会課題の解決に資する、人文学・社会科学的な手法を用いた研究プロジェクトを設計・計画することができる。 3）2の計画に沿って、研究を実施することができる。 4）3で得られた成果を、発表資料を用いて口頭発表することができる。 5）3で得られた成果を、学術研究論文としてまとめることができる。
授業計画	第1回　（4月）　ガイダンス 第2・3回　（5月）　研究構想発表（取り組む研究テーマの設定） 第4・5回　（6月）　研究計画発表（研究全体の計画） 第6・7回　（7月）　研究計画発表会（調査活動の具体的な計画） 第8・9回　（10月）　中間発表会（調査・分析活動の成果） 第10・11回　（11月）　研究成果合同発表会に向けた発表練習 第12・13回　（12月）　研究成果合同発表会（大阪大学・京都大学の合同開催） 第14・15回　（1月）　学術研究論文の最終稿提出
授業外における学習	各自の研究プロジェクトを実施する上で必要な文献･情報収集、発表資料作成、調査･分析、論文執筆といった種々の活動に対し、年間を通じて一定程度の時間・労力を費やすことが必要となる。履修者は、主専攻における研究活動等との両立を念頭に、主専攻の指導教員および本科目の担当教員と良く相談しながら、計画的に本科目に取り組むことが強く求められる。
履修条件・受講条件	本科目は、副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象とする必修科目であり、原則として同副専攻プログラムの初年度での履修は認めない。ただし、修了（卒業）年度の関係から同副専攻プログラムの初年度での履修が必要となる場合は、例外的に履修を認める場合もあるので、担当教員と相談のこと。
教科書・教材	特になし。
参考文献	研究論文のまとめ方に関しては、戸田山和久『新版 論文の教室―レポートから卒論まで』（NHK出版、2012年）、吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』（ナツメ書房、2004年）等を適宜参照すること。また、「政策のための科学」に関連した人文学・社会科学的手法を用いた文献については、授業時に適宜紹介・配布するが、関係の深い学術論文誌として『科学技術社会論研究』や『科学技術コミュニケーション』等を図書館・ウェブサイト等で随時参照すること。
成績評価	研究成果合同発表会での発表（必須）、学術研究論文の作成（必須）に加え、平常点（授業への出席、報告・発言等による授業への貢献等）を加味して総合的に判断する。
特記事項	

科学技術コミュニケーション入門A

開講科目名	科学技術コミュニケーション入門A
単位数	1単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Science, Technology and Communication A
時間割コード	3B1201（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	八木　絵香、水町　衣里、工藤　充
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	春学期　火曜5限　授業開始日（4月10日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構 ステューデントコモンズ2階セミナー室A
キーワード	科学技術イノベーション、専門家と市民、コミュニケーションのセンス、アウトリーチ、対話、パブリックエンゲージメント
授業の目的・概要	社会の中にある科学技術が問題を引き起こしたいくつかの事例（エネルギー問題、生殖医療問題、食料問題、災害に関連する問題等）を取り上げ、理工系の視点からのみ捉えられがちな科学技術の問題について、歴史学、哲学、心理学、社会学などの人文・社会科学の観点からみた理解や分析を加える。 その上で、科学技術をめぐるコミュニケーションとは何か、どのような形のコミュニケーションが、どのような理由で求められているのか、その解決方法にはどのようなものがあるのかについて、具体的な事例に関する講義とディスカッションを行う。 これらを通じて、現代社会における科学技術と社会のあいだにある諸問題を理解し、それを解決するために必要なコミュニケーションについての基礎素養を身につけることが本講義の目的である。
学習目標	科学技術コミュニケーションに関連する基本的知識を修得すること。 その上で、科学技術をめぐるコミュニケーションをめぐる問題がどのように発生するのかについて理解し、その解決のための方法論の基礎を習得すること。 その上で、科学技術コミュニケーション入門B（実践編）を受講する上での基本的な素養（異なる専門をもつ者同士のコミュニケーションの困難性や、フレームの違い等）を身につけることが本授業の目標である。
授業計画	第1回　イントロダクション、科学技術コミュニケーションをめぐる課題①（自然災害） 第2回　科学技術コミュニケーションをめぐる課題②（食品） 第3回　科学技術コミュニケーションをめぐる課題③（AI） 第4回　科学技術コミュニケーションをめぐる課題④（エネルギー） ＜中間課題＞ 第5回　科学技術コミュニケーションをめぐる課題を解決するための方法論についての講義 第6回　学生が選んだテーマによるグループワーク① 第7回　学生が選んだテーマによるグループワーク② ＜レポート課題＞ ＊第1～4回の授業は、30分講義･30分グループディスカッション･30分振り返りという形で、講義とディスカッションを合わせた形で進行する。講義およびディスカッションのテーマは変更となる可能性がある。 第6～7回の授業は、自らが選んだテーマをもとにグループワークを行う。
授業外における学習	本授業では、科学技術と社会のあいだで問題となった典型的な事例をとりあげると同時に、現在進行形の事例についても話題提供を行う。授業時間外で、適宜、自ら情報を収集し、過去の事例と現在進行形の事例を比較検討することで、より実践的な学びへとつなげることが可能となる。
履修条件・受講条件	特になし。 科学技術についての専門知識は必須ではない。人文社会科学系の学生の履修も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介する。
成績評価	毎回の授業で課すコメントシート（35%）、中間課題（30％）、最終レポート（35%）
特記事項	

科学技術コミュニケーション入門B

開講科目名	科学技術コミュニケーション入門B
単位数	1単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Science, Technology and Communication B
時間割コード	3B1202（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	八木　絵香、水町　衣里、工藤　充、他
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	冬学期　火曜5限　授業開始日（11月27日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室A
キーワード	科学技術コミュニケーション、専門家と市民、コミュニケーションのセンス、アウトリーチ、対話、パブリックエンゲージメント
授業の目的・概要	「科学技術コミュニケーション入門A」で修得した科学技術コミュニケーションに関する基本的知識と素養を前提として、より具体的な科学技術コミュニケーションのスキルや方法論について学ぶ。また、将来的に科学技術コミュニケーションに係わる仕事をしたいと考える学生を念頭に置き、実務経験者によるゲストレクチャーを含む多様なキャリアイメージの形成を行う。 その上で、科学技術コミュニケーションに関する基本的スキルを身につけることが本授業の目的である。
学習目標	「科学技術コミュニケーションA」で修得した基本的知識を踏まえた上で、具体的な科学技術コミュニケーションに関する基本的スキルを身につけることが本授業の目標である。
授業計画	第1回　イントロダクション 第2回　大学や研究機関の中での実践を知る（ゲスト予定：研究機関に所属するサイエンスコミュニケーター） 第3回　科学教育という文脈での実践を知る（ゲスト予定：学校教育現場で科学コミュニケーションに関わる方） 第4回　マスメディアでの実践を知る（ゲスト予定：マスメディア等の記者） 第5回　科学技術政策の現場での実践を知る（ゲスト予定：文部科学省の政策実務者） 第6回　新しい職を自ら切り開く（ゲスト予定：科学コミュニケーションに関してフリーランスやNPO/NGOセクターで活躍されている方） 第7回　振り返りと全体ディスカッション ＊科学技術コミュニケーションの問題に係わるためには、さまざまなキャリアがある。本授業では、科学技術コミュニケーションとよばれる分野の第一線で活躍するゲストティーチャー（実践的研究者、デザイナー、ファシリテーター、ジャーナリスト、政策担当者、弁護士、弁理士、シンクタンク研究者等）をお招きし、具体的な科学技術コミュニケーションの実践に関するスキルやノウハウを学ぶと同時に、受講者それぞれの関心に引きつけた多様なキャリアイメージの形成を行う。
授業外における学習	本授業では、科学技術と社会のあいだで問題となった典型的な事例をとりあげると同時に、現在進行形の事例についても話題提供を行う。授業時間外で、適宜、自ら情報を収集し、過去の事例と現在進行形の事例を比較検討することで、より実践的な学びへとつなげることが可能となる。
履修条件・受講条件	「科学技術コミュニケーション入門A」を受講していることが望ましい。 「科学技術コミュニケーション入門A」と同様に、科学技術についての専門知識は必須ではない。人文社会科学系の学生の履修も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介する。
成績評価	毎回の授業で課すコメントシート（35%）、中間課題（30％）、最終レポート（35%）
特記事項	

科学史・科学哲学入門

開講科目名	科学史・科学哲学入門
単位数	1単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to History and Philosophy of Science
時間割コード	3B1703（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	平川　秀幸
対象所属・年次	全研究科大学院生、全学部生
開講区分･曜日･時間	夏学期　木曜4限　授業開始日（6月14日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室A
キーワード	科学革命、科学の制度化、認識論、懐疑主義、論理実証主義、新科学哲学、社会構成主義
授業の目的・概要	現代社会において大きな役割と影響力をもっている科学技術は、どのような歴史を経て発展してきたのか、またこの歴史は、「人はどのようにして物事を正しく知ることができるのか」「正しいことを知っていると正当化できるのか」など科学哲学・認識論の問題や理論を通じてどのように理解されるのかについて、科学史ならびに科学哲学の基本的な知識と概念を学ぶ。
学習目標	近現代の科学技術史と20世紀中葉以降の科学哲学の基本に関する講義を通じて、以下の事項について説明できるようになる。 ・17世紀以降の西洋近代科学の歴史の概略について。 ・20世紀の世界および日本の科学技術と社会の歴史について。 ・知識の「客観性」「パラダイム」など20世紀の科学哲学の基本概念について。
授業計画	第1回 ガイダンス：本科目で扱う科学技術の歴史および科学哲学・科学論の基本的問いとは何かについて概略を紹介し、本講義の狙いや構成について説明する。科学史に関する授業の要所要所で、関連する科学哲学の概念について説明していく。 第2回 西洋近代科学の前史 第3回 西洋近代科学の誕生とパラダイム論 第4回 懐疑主義と近代認識論 第5回 18-19世紀における自然科学の成立と制度化 第6回「数学・物理学の危機」と20世紀の科学哲学：論理実証主義から新科学哲学まで 第7回 20世紀中葉から現代までの科学技術と社会：世界の動向 第8回 20世紀中葉から現代までの科学技術と社会：日本の動向
授業外における学習	16世紀から19世紀までの西洋史、20世紀の現代史における社会と科学技術との関わりについて調べてみること。科学哲学が、科学技術の歴史上の経験を通じて何を問題とし、どのように議論したのかについて調べてみること。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	毎回の講義で資料を配布する。
参考文献	中島秀人『社会の中の科学』（放送大学教育振興会、2008年）、S・シェイピン『科学革命とは何だったのか』（白水社、1998年）、野家啓一『科学哲学への招待』（筑摩書房、2015年）。 その他、担当講師が適宜文献を紹介。
成績評価	毎回の講義終了時のアンケートへの回答（30％）、講義中に行う小討論への参加度合（20％）、レポート（50％）
特記事項	

科学技術社会論入門

開講科目名	科学技術社会論入門
単位数	1単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Science, Technology and Society（STS）
時間割コード	3B1704（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	平川　秀幸、岸本　充生、吉澤　剛
対象所属・年次	全研究科大学院生、全学部生
開講区分･曜日･時間	春学期　木曜4限　授業開始日（4月12日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室A
キーワード	科学知識の社会学、社会構成主義、共生成、リスク、レギュラトリーサイエンス、科学技術の倫理的･法的･社会的問題（ELSI）、フレーミング、科学的助言、科学技術と民主主義、テクノロジーアセスメント
授業の目的・概要	現代社会は科学技術の発展と深く関わり、それなしには成り立たないが、他方で科学技術とそれに伴う産業経済の発展は、環境破壊や生命倫理の問題などの社会問題も引き起こしている。そうした問題に適切に対処し、科学技術を社会にとって、より良い方向に発展させ利用していくには、文理を越えた学際的協働が不可欠である。 「科学技術社会論」は科学技術と社会の相互作用に関する人文・社会科学の学際的研究分野であり、この授業では、現代社会における科学技術をめぐる社会的な問題や課題を深く理解するための基礎となる理論や概念について学ぶ。
学習目標	科学技術社会論の理論や概念を用いて、科学技術と社会の相互作用について、以下のことを洞察し、説明できるようになる。 ・社会（政治、経済、文化・価値規範など）が科学知識や技術の形成にどのように影響するか、逆に科学技術の発展や利用が社会にどのように影響し、どのような問題が生じるか。 ・安全基準などリスクの政策はどのように形成されるか。 ・科学技術をめぐる論争において、どんな倫理的・法的・社会的な問題（ELSI）があるか。 ・科学技術や関連する政策に一般の市民はどのように関わっていけるか。 ・科学技術が社会や人間にとって、より望ましく発展するためにはどのようにしたらいいか。
授業計画	第1回 イントロダクション：科学者の社会学から科学知識の社会学へ 第2回 科学知識と技術の社会的構成（1） 第3回 科学知識と技術の社会的構成（2） 第4回 科学技術論争 第5回 レギュラトリーサイエンス論 第6回 科学技術への市民参加 第7回 責任ある研究・イノベーション 第8回 まとめの討論
授業外における学習	理工系の学生は、自らの専門分野が、社会とどのように関わりをもっているかを調べてみること。人文学・社会科学系の学生は、身近に利用している科学技術について、どのような倫理的、法的、社会的な問題が生じ得るかを調べてみること。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	毎回の講義で資料を配布する。
参考文献	藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』（東京大学出版会、2005年）、Sergio Sismondo. An Introduction to Science and Technology Studies（2nd edition）, Wiley-Blackwell. その他、担当講師が適宜文献を紹介。
成績評価	毎回の講義終了時のアンケートへの回答（30％）、講義中に行う小討論への参加度合（20％）、レポート（50％）
特記事項	

科学技術と公共政策A

開講科目名	科学技術と公共政策A
単位数	1単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Science, Technology, and Public Policy A
時間割コード	3B1604（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	渡邉　浩崇
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	秋学期　木曜4限　授業開始日（10月4日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室C
キーワード	科学技術、公共政策、政策立案・決定・実施・評価
授業の目的・概要	科学技術の進展が人々の生活や社会に幅広い影響をもたらす現代において、科学技術に関する公共政策はどのような特徴があり、どのように立案、決定、実施、そして評価されるのか。人文科学、社会科学、自然科学などの専門を問わず、科学技術だけでなく公共政策に対する理解が求められている。 本科目「科学技術と公共政策A」では、公共政策とは何か？、そして公共政策がどのように立案、決定、実施、そして評価されるかを学ぶことで、科学技術に関する公共政策の特徴を考える。 ＊本科目に続く「科学技術と公共政策B」では、科学技術に関する公共政策の具体例として、宇宙政策、原子力政策、日本の科学技術イノベーション政策などを取り上げる。
学習目標	科学技術に関する公共政策を考える前提として、公共政策の特徴、その政策過程（立案、決定、実施、評価）などを理解することによって、これまでの科学技術に関する公共政策を振り返り、これからの科学技術に関する公共政策を考える素養を培う。
授業計画	第1回　はじめに―公共政策とは何か？、科学技術に関する公共政策とは何か？ 教科書・第1章　なぜ公共政策学か 第2回　教科書・第2章　問題―いかに発見され、定義されるのか 第3回　教科書・第3章　設計―解決策を考える 第4回　教科書・第4章　決定―官僚と政治家の動き 第5回　教科書・第5章　実施―霞が関の意図と現場の動き 第6回　教科書・第6章　評価―効果の測定と活用 第7回　教科書・第7章　公共政策をどのように改善するか おわりに―科学技術に関する公共政策の具体的分析に向けて 第8回　テスト（教科書・参考文献・授業配布物の持込可の記述式） 授業は毎回、学生の発表者が、教科書の担当部分（1章程度）の資料（パワーポイントやワード等）を作成・配布して、30分程度で説明した後、内容や問題点、質問やコメントなどについて議論を行い、必要に応じて担当教員が関連する講義を行う。最後に学生はコメントシートを回答･提出して、次回の授業の最初には、全体で前回とコメントシートの振り返りを行う。
授業外における学習	学生の発表者は、当日の朝9:00までに、資料（パワーポイントやワード等）のファイルを、CLE（Collaboration and Learning System）授業支援システムの課題として提出する（やむを得ない場合、担当教員にメール添付提出）。 学生は、各回で扱う教科書の該当部分に関して、授業前に読んで予習し、授業後にもう一度読んで復習し、また参考文献等も参照して理解を深める。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	秋吉貴雄『入門 公共政策学―社会問題を解決する「新しい知」』（中央公論新社、2017年）。
参考文献	秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』〔新版〕（有斐閣、2015年）。 鈴木一人編『技術・環境・エネルギーの連動リスク』（岩波書店、2015年）。 城山英明編『科学技術ガバナンス』（東信堂、2007年）。 その他、講義時に適宜紹介する。
成績評価	出席とコメントシート回答：70％（欠席の場合、担当教員に必ずメール連絡） テスト：30％（教科書・参考文献・授業配布物の持込可の記述式）
特記事項	文系理系を問わずさまざまな分野の学生の受講を期待する。

科学技術と公共政策B

開講科目名	科学技術と公共政策B
単位数	1単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Science, Technology, and Public Policy B
時間割コード	3B1605（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	渡邉　浩崇
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	冬学期　木曜4限　授業開始日（12月6日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室C
キーワード	科学技術、公共政策、宇宙政策、原子力政策、科学技術イノベーション政策
授業の目的・概要	科学技術の進展が人々の生活や社会に幅広い影響をもたらす現代において、科学技術に関する公共政策はどのような特徴があり、どのように立案、決定、実施、そして評価されるのか。人文科学、社会科学、自然科学などの専門を問わず、科学技術だけでなく公共政策に対する理解が求められている。 本科目「科学技術と公共政策B」では、科学技術に関する公共政策の具体例として、宇宙政策、原子力政策、日本の科学技術イノベーション政策などについて学ぶことで、科学技術に関する公共政策の特徴を考える。 ＊本科目の前の「科学技術と公共政策A」では、公共政策とは何か？、そして公共政策がどのように立案、決定、実施、そして評価されるかを学ぶ。
学習目標	科学技術に関する公共政策の具体例に対する理解を深めることによって、これまでの科学技術に関する公共政策を振り返り、これからの科学技術に関する公共政策を考える素養を培う。
授業計画	第1回　はじめに―科学技術に関する公共政策とは何か？、宇宙政策① 第2回　宇宙政策② 第3回　原子力政策① 第4回　原子力政策② 第5回　日本の科学技術イノベーション政策① 第6回　日本の科学技術イノベーション政策② 第7回　おわりに―科学技術に関する公共政策の比較 第8回　テスト（参考文献・授業配布物の持込可の記述式） 授業は毎回、前半は担当教員や外部講師（ゲストスピーカー）が講義を行い、後半は質疑応答と議論を行う。最後に学生はコメントシートを回答・提出して、次回の授業の最初には、全体で前回とコメントシートの振り返りを行う。外部講師としては、科学技術に関する公共政策の研究者や行政官を招へいする予定である。
授業外における学習	学生は、各回の授業内容に関して、授業後に参考文献等を読んで理解を深める。
履修条件・受講条件	本科目の履修前に、「科学技術と公共政策A」を履修していることが望ましい。
教科書・教材	特になし。
参考文献	秋吉貴雄『入門 公共政策学―社会問題を解決する「新しい知」』（中央公論新社、2017年）。 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』〔新版〕（有斐閣、2015 年）。 鈴木一人編『技術・環境・エネルギーの連動リスク』（岩波書店、2015 年）。 城山英明編『科学技術ガバナンス』（東信堂、2007年）。 その他、授業時に適宜紹介する。
成績評価	出席とコメントシート回答：70％（欠席の場合は、担当教員に必ずメール連絡） テスト：30％（参考文献・授業配布物の持込可の記述式）
特記事項	文系理系を問わずさまざまな分野の学生の受講を期待する。 授業日程は、基本的に毎週木曜4限（14:40-16:10）ですが、外部講師（ゲストスピーカー）の都合等で、木曜4限に続けて5限まで（14:40-17:50）授業を行い、翌週を休講とすることもある。

訪問術A（質的研究のデザインA）

開講科目名	訪問術A（質的研究のデザインA）
単位数	2単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Art of Field Research A: Qualitative Study and Ethnography
時間割コード	3B1401（知のジムナスティックス科目）
定員	10人
担当教員	池田　光穂
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	春学期　月曜6・7限　授業開始日（4月9日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室C
キーワード	質的研究、フィールドワーク、インタビュー、ナラティブ、エスノグ ラフィー（民族誌）、研究倫理
授業の目的・概要	この授業は、質的研究のデザイン（計画立案）と実践、また最終的な成果物であるエスノグラフィー（民族誌）について考える。研究のデザインを立案することは、その研究方法についての具体的な戦略を考えることにつながる。そのため、それぞれの方法についてのミニ実習とアウトカム発表をおこなうことも、この授業の目的になる。
学習目標	1. 質的方法の特性について理解し、量的方法との違いや、それぞれの利点と弱点を、他者（同僚の学生）に説明することができる。 2. さまざまなタイプの質的方法について、簡潔な定義を与えることができ、その方法を駆使すれば、どのようなアウトカムを得られるか、他者に説明することができる。 3. 質的な方法論とそれにもとづくエスノグラフィーの記法を学び、日常生活におけるさまざまなコラボレーションのあり方（＝コラボレーション・デザイン）を発見し、各人の立場から具体的な解決方法を提言することができる。
授業計画	第1回　質的研究とはなにか？：意味・歴史・特性・理論 第2回　テキストを通した解釈と理解：エスノグラフィーとエスノメソドロジー 第3回　研究デザイン：プロセスのデザイン、アウトカムのデザイン 第4回　フィールドワークとサンプリングの考え方 第5回　インタビューとはなにか？：構造化／半構造化／非構造化インタビュー 第6回　ナラティブとデータ化の課題と問題 第7回　フォーカス・グループ・インタビューとディスカッション 第8回　オーラル・データの収集と解析 第9回　参与観察、エスノグラフィー（民族誌）、視聴覚資料、フィールドでの心理調査技法 第10回　データのテキスト化とコーディング 第11回　発語のシークエンスの分析法 第12回　質的研究の評価と公刊に関する問題、および研究倫理 第13回　質的研究史からみる、その意味の変貌：電子化・インターネット化・量的研究との関係・研究経営化の弊害 第14回　まとめ：質的研究のデザインとはなにか？ 第15回　まとめ：エスノグラフィーと私たち
授業外における学習	復習用の資料のダウンロードや、スケジュールの変更などは、ウェブページ【質的研究のデザインとエスノグラフィー】（http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/jyugyo.html）などで伝える。
履修条件・受講条件	参加型の授業のために、毎回出席し、また相互に見知らぬ受講生と積極的にコラボレーションすること。
教科書・教材	フリック , ウヴェ（小田博志ほか訳）『質的研究入門』（春秋社、2011年）
参考文献	パーカー , イアン（八ッ塚一郎訳）『ラディカル質的心理学』（ナカニシヤ書店、2008年）、B・G・グレイザー、A・L・ストラウス著（後藤隆、大出春江、水野節夫訳）『データ対話型理論の発見：調査からいかに理論をうみだすか』（新曜社、1996年）
成績評価	平常点（60％）とレポート（40％）を基礎にして平常点（＝発言を通した授業への貢献）を加味して総合的に判断する。
特記事項	関連する授業にエスノグラフィーの読解を目標にした「訪問術B（体験型ジャーナリズム入門）」がある。あわせて受講するとより効果的に学ぶことができる。 シラバスをみて、事前にテーマを想像したり、情報を入手しておいたりすると、学習意欲向上のインセンティブになると思う。復習用の資料のダウンロードや、スケジュールの変更などは、ウェブページ【質的研究のデザインとエスノグラフィー】（http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/jyugyo.html）などで伝える。

訪問術Ｂ（体験型ジャーナリズム入門）

開講科目名	訪問術Ｂ（体験型ジャーナリズム入門）
単位数	２単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Art of Field Research B: Inquiry for Gonzo journalism
時間割コード	3B1405（知のジムナスティックス科目）
定員	10人
担当教員	池田　光穂
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	夏学期　月曜６・７限　授業開始日（６月11日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ２階セミナー室Ｃ
キーワード	体験型ジャーナリズム、ルポルタージュ、ドキュメンタリー、突撃取材、ライター、民族誌（エスノグラフィー）
授業の目的・概要	本講義では、体験型・ルポルタージュ・ジャーナリズムの基礎の修得を目指し、メアリー・ローチ、オリバー・サックス、山崎朋子など複数の作品の精読を通して、体験型ジャーナリズム取材にもとづく情報をどのように正確に伝えるのという課題や問題点について考える。また、課題レポートの作成を通して、ゴンゾー・ライティングの意味についても考える。途中で、ドキュメンタリー映像作家のマイケル・ムーアの作品の観賞も加えて体験型ジャーナリズムがもつ独特のエートスについても学ぶ。総じてジャーナリズムがもつ描写とは、現代を生きる私たちにどのような意味をもたらすのかについて、教師と受講生が共に考えることがこの授業の目的である。
学習目標	1. 同じ授業担当者が講じる「訪問術Ａ（質的研究のデザインＡ）」などの方法を無視して、いきなり対象者に肉薄するゴンゾー調査法（Gonzo method）の意味を理解し、その方法論の可能性と限界について考えることができる――すくなくとも君の友人や家族などの親しい人たちに、君自身の言葉 でこの調査法について「熱く」語ることができるようになる。 2.「体験的科学ジャーナリズムの魅力」を遺憾なく発揮している当代きってのジャーナリストであるメアリー・ローチの著作などの読解を通して、彼女の方法について分析し、それを我々も会得できるかどうかについて検証する（「リヴァース・エンジニアリング・リーディング（逆行工学的読書）」の意味が実例をもって説明できるようになる）。 3. ゴンゾー・ライティングの魅力は誰にでもその方法の可能性が開かれていることである。分析できたゴンゾー・メソッドを通して、実際にミニ・レポートを書くことができるようになる（必ずしもフィールドワークやインタビューが必須ではなく［想像の／サイバー上のフィールドワークという言葉が あるように］文献やサイバー探検だけでもできるようになる）。
授業計画	第１回　体験型ジャーナリズム、ゴンゾーライティングとはなにか？ 第２回　フォーマルな質的調査法について 第３回　ローチ『兵士を救え！◎ 珍軍事研究』(1) 第４回　ローチ『兵士を救え！◎ 珍軍事研究』(2) 第５回　ローチ『兵士を救え！◎ 珍軍事研究』(3) 第６回　ローチ『兵士を救え！◎ 珍軍事研究』(4) 第７回　山崎朋子『サンダカン八番娼館』(1) 第８回　山崎朋子『サンダカン八番娼館』(2) 第９回　山崎朋子『サンダカン八番娼館』(3) 第10回　山崎朋子『サンダカン八番娼館』(4) 第11回　山崎朋子『サンダカンまで』(1) 第12回　山崎朋子『サンダカンまで』(2) 第13回　山崎朋子『サンダカンまで』(3) 第14回　総合討論（まとめを含む） 第15回　総合討論（まとめを含む）
授業外における学習	資料の事前読解にもとづく予習と、電子メールあるいはSNSによるヴァーチャルな討論。
履修条件・受講条件	履修対象に該当する者であれば誰でも受講できる。経験者や学位論文作成のために社会調査研究に携わったことのある学生・院生は、未経験の受講者と共に学ぶことで、個人的知恵を伝授し共有することができるために多いに推奨する。
教科書・教材	ウェブページ【体験型ジャーナリズム入門（訪問術Ｂ）2018】（https://goo.gl/DmLPPS）に掲載している情報や配布資料など。ローチ, メアリー（村井理子訳）『兵士を救え！◎珍軍事研究』（亜紀書房、2017年）、山崎朋子『サンダカン八番娼館：底辺女性史序説』（筑摩書房、1972年）、山崎朋子『サンダカンまで：私の生きた道』（朝日新聞社、2001年）
参考文献	ウェブページ【体験型ジャーナリズム入門（訪問術Ｂ）2018】（https://goo.gl/DmLPPS）に掲載している情報など。Yamazaki Tomoko ; translated by Karen R. Colligan-Taylor、ローチ『死体はみんな生きている』、ローチ『霊魂だけが知っている』、サラモン『大病院』、サックス『火星の人類学者』、サックス『見てしまう人びと』、サックス『音楽嗜好症』
成績評価	学習者の各回の自己評価（ポートフォリオ分析）の積算（50％）と教師による観察評価（平常点を含む50％）
特記事項	シラバスをみて、事前にテーマを想像したり、情報を入手しておいたりすると、学習意欲向上のインセンティブになると思う。

社会における科学技術特定演習

開講科目名	社会における科学技術特定演習
単位数	2単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Science and Technology in their social contexts
時間割コード	211686
定員	10人程度
担当教員	山中　浩司
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　月曜5限
開講場所	吹田キャンパス：人間科学研究科 本館46講義室
キーワード	技術社会学、アクターネットワーク、技術慣性、情報技術、職業の未来
授業の目的・概要	技術が社会に出て行く状況、影響、問題などについて、技術社会学の学習と事例研究を通して理解を深める。今年度は、主として情報技術と社会との関係を取り上げ、その問題を考える。
学習目標	技術社会学の基礎的理解を得る。技術が社会から受ける影響、社会に及ぼす影響の両面についての知識と理解を情報技術を事例として理解する。
授業計画	前半は、必要な知識を担当教官から提供し、議論を中心に進める。後半は、参加者による事例検討を中心とする。 Part 1. 技術社会学の議論と理論 1）社会の技術的基礎：技術決定論 2）技術の社会的基礎：技術の社会構築主義 3）アクターネットワーク論、技術慣性論 4）技術マネージメント 5）技術と政治 Part 2. 情報技術と社会 6）情報技術と労働（悲観予想と楽観予想） 7）情報技術と技能（自動化と情報化、SBTCをめぐる議論） 8）情報技術と職業（職業の未来） 9）事例検討 10）事例検討 11）事例検討 12）事例検討 13）事例検討 14）事例検討 15）ディスカッション
授業外における学習	レクチャーについては関連文献に目を通すことが望ましい。多くが英語文献であるため英語力がある程度必要。後半の演習については、参加者の興味に応じてトピックを選択し、さまざまな視角から事例検討を試みる。
履修条件・受講条件	科学や技術についての関心。
教科書・教材	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	各セッションへの出席、発言、報告書の提出を総合的に評価する。
特記事項	

サステイナビリティ評価・技術論

開講科目名	サステイナビリティ評価・技術論
単位数	2単位　　授業形態｜講義科目　　開講言語｜日本語
開講科目名(英)	Valuation Methods and Engineering Aspects in Sustainability Science
時間割コード	281010
定員	10人
担当教員	東海　明宏、梅田　靖、原　圭史郎、下田　吉之、栗本　修滋、上須　道徳
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　木曜3限　授業開始日（4月12日）
開講場所	吹田キャンパス：工学研究科M3棟211
キーワード	サステイナビリティ評価、技術システム、メゾ領域
授業の目的・概要	文理融合の視点から、サステイナビリティに関わる技術・技術システムついて概観し、サステイナビリティにかかわる具体的な問題を通じて、既存の理論・手法の有用性およびその限界を明らかし、問題解決に必要となる知識・方法を選択・統合する能力を身に付ける。授業スケジュールにあるテーマについて外部講師も含めて第一線で活躍する研究者が講義を行う。演習では授業の理解を掘り下げるため、講義に基づくテーマでのディスカッションや、グループ演習を行い、個別の研究シーズや技術をサステイナビリティの観点から俯瞰・評価し、これらのシーズを社会実装して持続可能社会形成を導いていくための考え方や研究ツールに関する演習を行う。
学習目標	サステイナビリティに関する概念を理解した上で、個別の研究・技術シーズをサステイナビリティの観点から包括的に評価をするための考え方や方法論を習得する。
授業計画	2回目以降はおおよそ以下のようなテーマを扱う予定であるが、順番やテーマ内容等については変更がありうる。 イントロダクション：サステイナビリティと技術システム 持続可能な技術とシステム エネルギーのサステイナビリティと技術I エネルギーのサステイナビリティと技術II フューチャーデザイン：サステイナビリティ実現のための制度設計 エネルギー技術のライフサイクル評価 水処理技術のイノベーションと実装 サステイナビリティの見方と評価:バイオ燃料の評価事例などを例に 日本の農業と林業のサステイナビリティ評価I 日本の農業と林業のサステイナビリティ評価II 演習Ⅰ・イントロダクション 演習II・グループワーク 演習III・グループワーク 演習Ⅳ 発表
授業外における学習	グループワークで授業外での作業が発生します。
履修条件・受講条件	文系･理系にとらわれず、他領域の理論やアプローチを学習することをいとわない意欲があることが要件。授業およびグループ演習への積極的な参加・議論が求められる。
教科書・教材	毎回の講義で資料を配布する。
参考文献	原圭史郎・梅田靖編著『サステイナビリティ・サイエンスを拓く―環境イノベーションへ向けて―』（大阪大学出版会、2011年）
成績評価	出席（30％）、演習発表・期末レポート（70％）
特記事項	

科学技術移転論

開講科目名	科学技術移転論
単位数	2単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Management of Science Technology Transfer
時間割コード	290566（知のジムナスティックス科目）
定員	10人
担当教員	草部　浩一
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　金曜5限
開講場所	豊中キャンパス：基礎工/B104講義室
キーワード	サイエンスライティング、プロジェクトプランニング、知的財産権
授業の目的・概要	高度な競争環境にある先端科学技術研究に将来携わることが期待されている、技術系大学院生に対して、現在の社会的環境に適応した研究活動を実施するための知識と技能を習得させることを最終的な目標とした、実習の要素を含んだ系統立てられた講義を行う。 企業活動におけるプロジェクトや国家プロジェクト、国際プロジェクトなどの実際的な場面において必要とされる、コミュニケーション、マネージメント、プランニング、などの要素技術の基礎を提供し、知的財産権論、ベンチャー企業論等を導入し、個別の事例に則した実践的解法である戦略の立案法を論じる。同時 に、教員とのディスカッションを通して具体的事例に基づくプロジェクトプランニングを実習し、コンテスト形式の評価を通して実践的技能を習得させる。
学習目標	受講者自らが研究・開発の結果を産業界に技術移転する際の課題を見つけ出すことができる。 受講者自ら、研究テーマが解決できる課題を選定して、その技術の優位性を見出し、事業展開や研究展開に繋げていく方策を選択できる。 受講者自ら、研究成果や開発成果を社会に発信するためにプレスリリース、特許、論文など多様なメディアを適切に用いた情報発信ができ、技術移転の方策を立てることができる。
授業計画	講義内容： 第1回　ガイダンス・科学技術の移転 第2回　自然科学者のための文章化技術・基礎I 第3回　初歩からの知的財産権戦略 第4回　自然科学者のための文章化技術・基礎II 第5回　自然科学者のための知的財産権入門I 第6回　自然科学者のための知的財産権入門II 第7回　自然科学者のための知的財産権入門III 第8回　企業におけるイノベーションI 第9回　企業におけるイノベーションII 第10回　発想法入門 第11回　プロジェクトプランニングI 第12回　プロジェクトプランニングII 第13回　サイエンスライティングの基礎と応用 第14回　科学技術者のためのプレゼンテーション技術 第15回　プロジェクトプランニング・コンテスト
授業外における学習	受講者自らプレスリリースを具体的に作成し、その結果を講義時間において添削・評価する。 受講者自ら研究活動や技術開発のプランニングを行い、申請書形式に纏める。その結果を評価する。
履修条件・受講条件	特になし。積極的に実習や討論に参加する履修者を希望している。
教科書・教材	必要に応じて講義時間に指示する。
参考文献	講義時間中に配布する資料を参照のこと。
成績評価	出席のみでなく、レポート課題への対応や、プロジェクトプランニングの実践結果を評価する。
特記事項	

公共政策Ⅰ

開講科目名	公共政策Ⅰ
単位数	2単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Public Policy Ⅰ
時間割コード	310402
定員	20人
担当教員	中嶋　啓雄
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　木曜5限　授業開始日（10月4日）
開講場所	教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	政策研究
授業の目的・概要	広く公共政策を研究する上で必要な基礎的知識・理解を身につけること。政治学、法学、経済学の各分野の教員によるオムニバス講義（リレー形式）を予定している。
学習目標	広く公共政策について、政治学、法学、経済学の基礎を理解した上で、具体的な提案を示すことができる。
授業計画	昨年度から装いを新たにしたオムニバス講義（リレー形式）です。詳細は追ってお知らせします。
授業外における学習	参考文献の予習、復習
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	特になし。
参考文献	星野俊也・大槻恒裕・村上正直編『グローバリズムと公共政策の責任』（大阪大学出版会、2016年） その他の参考文献は追って指示する。 各回、レジュメを配布するか、スライド（パワーポイント）等を用いる。
成績評価	出席、学期末レポート
特記事項	

科学技術イノベーション政策総合演習

開講科目名	科学技術イノベーション政策総合演習
単位数	2単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy
時間割コード	3B2703
定員	10人
担当教員	平川　秀幸、渡邉　浩崇、工藤　充
対象所属・年次	全研究科大学院学生（副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象）
開講区分･曜日･時間	集中（夏） 8月中に、合宿事前ワークショップ（1日）、他大学との合同合宿セミナー（2泊3日）
開講場所	8月9日：豊中キャンパス 総合棟Ⅰ 3階341（COデザインスタジオ） 8月28～30日（2泊3日）: 政策研究大学院大学（東京都内）
キーワード	科学技術イノベーション政策、公共政策、科学技術コミュニケーション
授業の目的・概要	科学技術イノベーション政策分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から政策立案の在り方を検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。
学習目標	科学技術イノベーション政策に関する課題について、多様な意見を踏まえつつ、限られた制約（時間・情報・資源等）の中で、一定の成果（政策提言）を生み出す体験をするとともに、各拠点学生との共同作業を通じて、異なる知見の融合方法を習得する。
授業計画	本科目では、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点（政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学、九州大学）合同の合宿セミナーを行う。副専攻履修者のみによる合宿事前ワークショップの後、2泊3日の合宿（8月28～30日、東京都内にある政策研究大学院大学での開催を予定）において、ゲスト講師による講義や、各拠点の学生とのグループワークを通じて、共同で問題分析や政策提言等の作成・発表を行う。 第1～4回　合宿事前ワークショップ（8月9日） 第5～15回　他大学との合同合宿セミナー（8月28～30日：2泊3日）
授業外における学習	合同合宿セミナー前、他拠点学生とのグループで、事前課題（基本文献）を読むとともに、テーマに応じてグループ別に情報収集を行う。
履修条件・受講条件	本科目は、副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象とする科目である。履修希望者多数の場合は選抜を行う。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介・配布する。
成績評価	成果物・提出物等により、総合的に判断する。
特記事項	

科学技術と社会特論A

開講科目名	科学技術と社会特論A
単位数	1単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Hot Issues in Science, Technology and Society A
時間割コード	3B1705（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	平川　秀幸、渡邉　浩崇
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	秋学期　隔週水曜５・６限　授業開始日（10月３日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ２階セミナー室A
キーワード	科学技術イノベーション、科学技術の社会的論争、問題のフレーミング、デュアルユース研究（軍民両用研究）
授業の目的・概要	現代社会における科学技術は、多大な恩恵をもたらすとともに、環境や人間の健康に対するリスクや倫理的問題などをめぐって、しばしば社会的な論争の的になる。そこで争われるのは、「何が事実か」だけでなく、そもそも何が「問題」なのか、それは誰にとっての問題なのか、どのような解決が望ましいのかといった、社会的な立場や価値観の違いによって異なりうる「問題のフレーミング」の対立やすれ違いもある。 より望ましい科学技術の発展や利用を実現するためには、このような社会的対立や問題の複雑なあり方を理解し、「その問題について社会が答えを出すためには、具体的にどのような問題を、どのような観点から、何を考慮に入れて検討すべきか」を考える必要がある。本科目では、現在、社会的な論争のある科学技術の問題（ホットイシュー）として、大学における「デュアルユース研究」（軍民両用研究）の是非等の問題を取り上げ、意見・立場の異なる二人の論客を講師として招き、講義を受けたうえで、受講生および担当教員の間で討論を行う。
学習目標	単なる主張の正誤に還元できない科学技術の社会的問題をめぐる論争の複雑な構図を、重層的・多角的に理解し、分野や立場の違いを超えて他者と議論し説明できるようになる。
授業計画	初回のオリエンテーション以降は、各回２時限連続で授業を行う。意見・立場の異なる論客が、各々別の回に講義を行い（90分）、それをもとに質疑応答と討論を行う（90分）。最終回は、これら２回の論客の講義と討論をもとに、大学における「デュアルユース研究」（軍民両用研究）の問題について社会が答えを出すためには、具体的にどのような問題を、どのような観点から、何を考慮に入れて検討すべきかを討論を通じて考える。（第２回・第３回以降の日程は目安。2018年10月までに決定しKOANで示す。） 第１・２回 イントロダクション　10月３日 第３・４回 論客１による講義と討論　10月17日 第５・６回 論客２による講義と討論　11月７日 第７・８回 総合討論　11月21日
授業外における学習	各回の講義内容を復習するとともに、講義で紹介する関連文献を読む。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介する。
成績評価	出席とレポートによる。
特記事項	

科学技術と社会特論B

開講科目名	科学技術と社会特論B
単位数	1単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Hot Issues in Science, Technology and Society B
時間割コード	3B1706（知のジムナスティックス科目）
定員	30人
担当教員	平川　秀幸、渡邉　浩崇
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	冬学期　隔週水曜5・6限　授業開始日（11月28日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室A
キーワード	科学技術イノベーション、科学技術の社会的論争、問題のフレーミング、超スマート社会
授業の目的・概要	科学技術の発展は、社会・人間に多大な恩恵をもたらすとともに、さまざまなリスクや倫理的問題を生じさせ、時に大きな社会的対立をもたらす。それら問題や対立は、一度生じたあとでは解決や解消が困難になるため、実用化に先立って、研究開発の途上の段階（萌芽的段階）から、将来予想される社会的課題（エマージェントイシュー）を多角的に予見し、研究開発や政策による対応を準備していく必要がある。 本科目では、そのような社会的課題を伴うテーマとして「超スマート社会」（＝サイバー空間と現実社会が高度に融合した社会。政府の第5期科学技術基本計画で提案）の情報科学技術を取り上げ、専門分野・社会的立場の異なる二人の論客を講師として招き、講義を受けたうえで、受講生の討論を通じて、現在から対応すべき重要課題としてどのような課題が生じうるかを検討する。
学習目標	単なる主張の正誤に還元できない科学技術の社会的問題をめぐる論争の複雑な構図を、重層的・多角的に理解し、分野や立場の違いを超えて他者と議論し説明できるようになる。
授業計画	初回のオリエンテーション以降は、各回2時限連続で授業を行う。専門分野・社会的立場の異なる論客が、各々別の回に講義を行い（90分）、それをもとに質疑応答と討論を行う（90分）。最終回は、これら2回の論客の講義と討論をもとに、将来重要となり、現在から対応を準備すべき超スマート社会（サイバー空間と現実社会が高度に融合した社会）の社会的課題（エマージェントイシュー）にはどのようなものがあるかを、討論を通じて検討する。（第2回・第3回以降の日程は目安。2018年10月までに決定しKOANで示す。） 第1・2回 イントロダクション　11月28日 第3・4回 論客1による講義と討論　12月5日 第5・6回 論客2による講義と討論　1月16日 第7・8回 総合討論　1月30日
授業外における学習	各回の講義内容を復習するとともに、講義で紹介する関連文献を読む。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介する。
成績評価	出席とレポートによる。
特記事項	

特別講義A（Science, Technology and Society）

開講科目名	特別講義A（Science, Technology and Society）
単位数	1単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　英語
開講科目名(英)	Special Lecture A（Science, Technology and Society）
時間割コード	3B1517（知のジムナスティックス科目）
定員	15人
担当教員	工藤　充
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	夏学期　木曜5限　授業開始日（6月14日）
開講場所	豊中キャンパス：総合棟Ⅰ3階341（COデザインスタジオ）
キーワード	science and technology studies; cultural studies; science communication; public engagement
授業の目的・概要	Science, Technology and Society is an interdisciplinary course that aims to develop students' capacity to carefully examine relationships between science, technology and society. Through group discussion with students from different disciplinary and social backgrounds, students explore the ways in which "scientific expertise" is produced, communicated, utilised and consumed in our society today from political, economic, legal and cultural aspects. By doing so, students will learn to think reflectively about, question and critically analyse the ways in which science, technology and society interact with one another, and what impacts they have on the way we make sense and use of science and technology in our daily lives.
学習目標	By the end of the course, students will be able to: 1. identify and examine issues associated with relationships between science, technology and society by applying critical thinking and social scientific approaches; 2. reflect critically on their own experience of studying and researching in relation to ; and 3. present their own thoughts and ideas and discuss them with other students in English.
授業計画	Wk 1. Introduction to the course Wk 2. Science, technology and nationality Wk 3. Science, technology and gender Wk 4. Science, technology and language Wk 5. Science, technology and researcher training systems Wk 6. Science, technology and the public Wk 7. Students' presentation day (End of term presentation) Wk 8. Reflection on your own learning in the course
授業外における学習	Prior to each class, students will be given a worksheet with 1-2 short pre-readings to complete and electronically submit to the instructor, which will be used in the class and discussions. For the end-of-term presentation, students will research a topic that has been covered in the course and give a short presentation to the class.
履修条件・受講条件	Students from all disciplinary backgrounds, including natural and social sciences, humanities, engineering and medicine, are welcome. Lectures will be delivered primarily in English, and students will be expected to actively participate in group discussions to share their thoughts and views with other students in English. Interested students with limited English proficiency are encouraged to contact the instructor prior to the registration.
教科書・教材	TBA
参考文献	TBA
成績評価	Pre-class worksheet（30%）; Class participation（50%）; End of term presentation（20%）.
特記事項	

特別講義B（Crossing Borders in Higher Education and Research）

開講科目名	特別講義B（Crossing Borders in Higher Education and Research）
単位数	1単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　英語
開講科目名(英)	Special Lecture B（Science, Technology and Society）
時間割コード	3B1518（知のジムナスティックス科目）
定員	15人
担当教員	工藤　充
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	秋学期　木曜5限　授業開始日（10月4日）
開講場所	豊中キャンパス：総合棟Ⅰ3階 341（COデザインスタジオ）
キーワード	science and technology studies; cultural studies; globalisation; internationalisation; citizenship
授業の目的・概要	Crossing Borders in Higher Education and Research is an interdisciplinary course that aims to develop students' capacity to carefully examine "border-crossing" associated with higher education and research. Through group discussion with students from different disciplinary and social backgrounds, students explore the ways in which globalisation and/or internationalisation of higher education and research impact on "border-crossing" by international students and researchers from political, economic, legal and cultural viewpoints. By doing so, students will learn to think reflectively about, question and critically analyse a range of persisting and emerging issues of globalisation and/or internationalisation of higher education and research.
学習目標	By the end of the course, students will be able to: 1. identify and examine issues of higher education and research associated with globalisation and/or internationalisation by applying critical thinking and social scientific approaches; 2. reflect critically on their own experience of studying and researching in relation to internationalisation and/or globalisation of higher education and research; and 3. present their own thoughts and ideas and discuss them with other students in English.
授業計画	Wk 1. Introduction to the course Wk 2. Japanese students studying abroad Wk 3. International students studying in Japan Wk 4. Japanese researchers moving and working overseas Wk 5. Immigration of foreign researchers to Japan Wk 6. Nurturing "guro-baru jinzai" (global human resources) Wk 7. Students' presentation day (End of term presentation) Wk 8. Reflection on your own learning in the course
授業外における学習	Prior to each class, students will be given a worksheet with 1-2 short pre-readings to complete and electronically submit to the instructor, which will be used in the class and discussions. For the end-of-term presentation, students will research a topic that has been covered in the course and give a short presentation to the class.
履修条件・受講条件	Students from all disciplinary backgrounds, including natural and social sciences, humanities, engineering and medicine, are welcome. Lectures will be delivered primarily in English, and students will be expected to actively participate in group discussions to share their thoughts and views with other students in English. Interested students with limited English proficiency are encouraged to contact the instructor prior to the registration.
教科書・教材	TBA
参考文献	TBA
成績評価	Pre-class worksheet (30%); Class participation (50%); End of term presentation (20%)
特記事項	

COデザイン講義（Food Security and Sustainability）

開講科目名	COデザイン講義（Food Security and Sustainability）
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　英語
開講科目名(英)	Food Security and Sustainability
時間割コード	3B2204（知のジムナスティックス科目）
定員	15人
担当教員	思　沁夫、上須　道徳
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　火曜2限　授業開始日（4月10日）
開講場所	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデントコモンズ2階セミナー室C
キーワード	food security, poverty, agriculture, development
授業の目的・概要	This course will cover a variety of topics concerned with the economic development of low-income countries, with a particular focus on food security, globalization and sustainability. Topics to be covered include agricultural issues in developing countries, hunger, population growth, impacts on the environment, and the role of policy (such as trade and science & technological policies). In addition, some economics tools will be introduced to help understand the topics. A certain amount of class time will be devoted to discussion, as well. There will be short homework assignments based on the reading, which will be the basis of the class discussions.
学習目標	To be able to understand the situations and perspectives of food problems.
授業計画	I. The Problem 1. Ice-breaking: Introduction and brain storming 2. Hunger, Poverty and Health 3. Economics of Food Demand 4. Population Growth II. Agriculture and Economic Development 5. Economic Growth and Agriculture 6. Development Theory and Agriculture III. Agriculture and Resource Use 7. Agriculture in Traditional Societies and Agricultural Systems 8. Resources & Sustainability 9. Family, Gender, and Development VI.Transforming the Agricultural Sector 10. Theories and Strategies 11. Research, Extension, and Education 12. Land, Labor, Inputs and Credit Markets 13. Price Policy and Output Markets V. Toward sustainable agriculture: food security, globalization and sustainability 14.&15. Presentation & Discussion A. Global Institutions B. Agriculture and Trade C. Trade Policy D. Macroeconomic Policies E. Capital Flows and Foreign Assistance
授業外における学習	Reading assignments will be given.
履修条件・受講条件	None
教科書・教材	George W. Norton, Feffrey Alwang, William A. Masters, Routledge “Economics of Agricultural Development- World Food Security and Resource Use.” (Routredge, 2014) 2nd Edition (I recommend you purchase the book although the rst few chapters will be photocopied and handed out. The paperback version of this book is purchased at online shops such as amazon.co.jp for 4,700 yen.)
参考文献	C. Ford Runge, Benjamin Senauer, Philip Pardey and Mark Rosegrant “Ending Hunger in Our Lifetime: Food Security and Globalization.” (Johns Hopkins, 2003). Yujiro Hayami, Vernon W. Ruttan “Agricultural Development.” (Johns Hopkins University Press, 1985)
成績評価	Class participation (30%), Homework Assignment (40%), Group work and Presentation (30%). The last two class meetings will be allocated for presentation.
特記事項	

特別講義（インターネット技術と法規制）

開講科目名	特別講義（インターネット技術と法規制）
単位数	2単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Special Lecture（Internet Technology and Law）
時間割コード	020295
定員	5人程度
担当教員	養老　真一、田中　規久雄、谷　次郎
対象所属・年次	全研究科大学院生、学部3・4年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　水曜4限　授業開始日（10月3日）
開講場所	教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	インターネット、法規制
授業の目的・概要	この授業では、インターネットに関する法規制と、その前提となる技術を理解することを目的とする。
学習目標	・インターネットに関連した法規制の基本的な事柄について、説明することができる。 ・インターネットのいくつかの基本的な技術について、説明することができる。
授業計画	第1回：ガイダンス ［法規制］ 第2回：インターネットにおける人格権侵害（名誉毀損） 第3回：インターネットにおける人格権侵害（プライバシー侵害）/インターネット上の個人情報保護 第4回：デジタル知財1 第5回：デジタル知財2 第6回：サイバー犯罪 第7回：インターネットにおける消費者保護 ［技術］ 第8回：インターネットの基本的な仕組み 第9回：ドメイン名システム 第10回：インターネットの発信者情報 第11回：メール配送の仕組み、不正アクセス/コンピュータ・ウィルス 第12回：暗号と認証技術 第13回：bitcoin ［技術と法規制］ 第14回：技術と法規制がオーバーラップするテーマを取り上げる 第15回：まとめ
授業外における学習	適宜指示する。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	教科書はなし。 資料等は、授業支援システムに提示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	オムニバス講義なので、適宜担当者から指示する。
特記事項	テレビ会議システムを設置している教室の関係から、受講人数を制限することがある。 その場合、抽選をおこなうので、初回の授業には、かならず出席すること。 本科目は名古屋大学と共同で実施されている科目であり、名古屋大学の学生も単位取得可能とするため、テレビ会議システムによって名古屋大学に配信される。

総合演習（生命倫理と法）
特定研究（生命倫理と法）

開講科目名	総合演習（生命倫理と法）、特定研究（生命倫理と法）
単位数	2単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Bioethics and Law
時間割コード	220515＝総合演習（生命倫理と法）（博士前期）、221407＝特定研究（生命倫理と法）（博士後期）
定員	10人程度
担当教員	瀬戸山　晃一
対象所属・年次	全研究科修士（博士前期）課程、博士後期課程
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　水曜2限　授業開始日（9月26日）
開講場所	教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	先端医科学技術の法的倫理的社会的問題、医療倫理、臨床倫理、研究倫理、遺伝子差別
授業の目的・概要	次世代シーケンサーによる遺伝子解析技術の向上と低コスト化、iPSやES細胞などの万能細胞研究がもたらす再生医療や難病治療の実現可能性、ゲノム編集技術その他の現代の生命科学の加速度的な進歩は、極めて大きな期待を有している半面、遺伝子差別や能力格差や社会的不平等といった将来世代にも関わる深刻な新しい倫理的社会的問題を次々と提起してきている。そして、これらの課題に対する法的応答を求める社会的要請が極めて強くなってきている。本演習では、生命科学技術とそれを応用する現代医療をめぐるバイオエシックス上の諸問題を取り上げ、具体的な事例を題材に法規制のあり方自体をも検討していく。
学習目標	医療倫理・臨床倫理・研究倫理を包含する学際的な学問領域である生命倫理学のアプローチから、医科学技術の発展に伴い生起してきている新たな倫理的社会的問題に対するガバナンスの是非をめぐる論争の背後にある理論（思想）対立にも着目する。そして、比較法文化・法制度論的視角、政策学や「法と経済学」的視点、さらには法哲学的観点からも分析検討する。それらを通してグローバルで柔軟な思考枠組みから課題にアプローチする知的態度と実践能力を涵養することを授業の主なねらい（目標）とする。
授業計画	【プロローグ】生命倫理と臨床倫理と法学の学問的使命と学際的方法論 第1回　授業ガイダンス：授業目的・講義の進め方・成績評価方法との説明等 【第一部】生命倫理の基本原則とパターナリズム：医療情報のプライバシー・遺伝子差別 第2回　医療倫理の原則と自由制約原理：インフォームド・コンセントとパターナリズム 第3回　癌不告知裁判と輸血拒否の裁判：自己決定の意味を再考する 第4回　遺伝情報の情報開示：遺伝情報の特殊性と「知る権利」と「知らないでいる」権利 第5回　遺伝情報のプライバシーと雇用や保険契約における遺伝子差別 第6回　遺伝子介入とゲノム編集：能力の増強（エンハンスメント） 【第二部】生殖補助医療をめぐる生命倫理上の諸問題：法的規制と指針（ガイドライン） 第7回　遺伝子検査と優生思想：着床前遺伝子診断と胚選別、出生前診断と選択的中絶 第8回　体外受精・人工授精と出自を知る権利・死後生殖と親子関係・卵子売買 第9回　代理出産（懐胎）と親子関係（子どもの法的地位） 【第三部】人生の最終段階における医療を巡る倫理問題と法政策 第10回　重度障害新生児の選択的治療中止、赤ちゃんポスト（親の負担と新生児の利益保護） 第11回　消極的安楽死（延命治療停止・胃瘻と尊厳死）（死の自己決定権と代理決定） 第12回　積極的安楽死・医師の自殺幇助（死の自己決定権） 【第四部】医療資源配分の公平性と医療へのアクセスの不平等性 第13回　臓器移植：生き延びる権利と臓器売買の闇市場問題（医療へのアクセスの平等性） 第14回　医学研究（臨床研究）をめぐる問題：研究不正と研究公正、倫理審査委員会の現状 第15回　全体の総括とレポート試験の課題提示と説明及び質疑応答
授業外における学習	双方向的な授業実践を実現するため、指示した文献に目を通してくる予習に約30分、フィードバック・コメント作成とメールでの提出とともに他の受講生のコメント内容に目を通す形での復習に約60分を想定。
履修条件・受講条件	履修条件・受講条件は特にないが、受講希望者は、自己紹介（専攻や職歴等のバックグラウンドや将来の展望など）及び受講希望理由を、800文字以上1200文字以内でワードで作成し私のメールアドレスsetoyama@koto.kpu-m.ac.jpに添付ファイルで提出すること。なお送付の際には、件名に「生命倫理と法2018年度、受講希望　氏名」と記載すること。
教科書・教材	甲斐克則編『レクチャー生命倫理と法』（法律文化社、2012年）。その他の教材は、参考文献や新聞記事の中から、必要に応じて厳選してコピー配布する予定。
参考文献	適宜、授業の際に指示する。
成績評価	講義への出席回数（15％）、授業中の質疑応答やディスカッションへの能動的参加及び授業の教育効果向上のための貢献度の程度（20％）、毎回の授業フィードバック・コメントの提出回数と記述内容（15％）を平常点とする。学期末試験は、レポート試験（評価割合50％）とし、平常点（評価割合50％）との総合によって評価する。
特記事項	高等司法研究科（法科大学院）との合同授業であり、初回授業は9月最終週の水曜2限に行われるので出席すること。専門分野の異なる多様な受講生によるディスカッションを通して、自らの見解を相対化し、多様な視角から深化させる教育効果を狙いとしているので積極的な参加を期待している。

ライフサイエンスの倫理と公共政策学

開講科目名	ライフサイエンスの倫理と公共政策学
単位数	2単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Ethics and Public Policy of Life Sciences
時間割コード	250520
定員	30人
担当教員	加藤　和人、吉澤　剛
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	集中　9月10日（月）、11日（火）、12日（水）1限～5限（8:50～17:50）
開講場所	教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	生命倫理、ガバナンス、テクノロジーアセスメント、ゲノム、iPS
授業の目的・概要	20世紀後半から急速に発展してきたライフサイエンスは、現在も多くの新しい分野を開拓しつつ、発展を続けている。同時に、遺伝情報やヒト細胞の取り扱いなど、研究から生まれる倫理的課題・社会的課題が生じてきている。ライフサイエンスが社会から信頼された形で進み、研究とその応用からうまれる成果が最大限に生かされるためには、社会との接点分野で生じる課題を抽出し、対応策を考える必要がある。また、本講義では、ライフサイエンスの倫理的・社会的課題にどのようなものがあり、それに対して、どのような対応がとられているかを、国際的な対応、各国での対応、研究コミュニティーによる対応など、多様なレベルの具体例を紹介しながら、講義する。また、最新の技術の社会への導入に際して、市民を含む多様な観点から評価する活動であるテクノロジーアセスメントについても、理論面と具体的ケースの両方を取り上げて解説する。
学習目標	最新のライフサイエンス研究に関する倫理的・政策的課題について、多様な分野の視点を取り入れて検討できる。
授業計画	ライフサイエンスの倫理と政策に関する課題と対応の方法について全体像を概説した上で、いくつかの具体例を取り上げながら解説を行う。 1. イントロダクション－ライフサイエンスの倫理的・社会的課題 2. 事例検討－ヒトiPS細胞研究を例にして 3. 遺伝子診断をめぐる倫理的・社会的課題（1） 4. 遺伝子診断をめぐる倫理的・社会的課題（2） 5. 講義1-4についての総合討論 6. 科学技術イノベーション政策 7. テクノロジーアセスメントの理論と実践 8. 将来の社会と健康・医療（グループディスカッション） 9. 科学研究の変容 10. 責任ある研究・イノベーション 11. 倫理的課題への政策的対応－日本と世界 12. 研究者コミュニティーの対応－米国科学アカデミーおよびヒトゲノム 13. ヒト胚をめぐる倫理と政策（1） 14. ヒト胚をめぐる倫理と政策（2） 15. 総合討論 講義日程は変更することがあります。医の倫理と公共政策学のウェブサイトを確認してください。http://ethpol.org/lecture/
授業外における学習	レポートを作成する。
履修条件・受講条件	理科系、文科系、いずれを専門とする学生の方でも参加できます。講義の中ではディスカッション形式で参加者が主体的に議論する時間を設ける予定です。最新のライフサイエンス研究に関する倫理的・政策的課題について、多様な分野の視点を取り入れて検討する経験をしていただきます。
教科書・教材	特になし。
参考文献	加藤和人「生命科学の倫理と科学コミュニケーション―日本の課題と科学研究コミュニティへの期待」位田隆一・片井修・水谷雅彦・矢野智司編『倫理への問いと大学の使命』（京都大学学術出版会、119-131頁、2010年）。
成績評価	出席（50％）、レポート（50％）
特記事項	

産業環境マネジメント論

開講科目名	産業環境マネジメント論
単位数	2単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語・英語
開講科目名(英)	Environmental management for sustainable industrial systems
時間割コード	280844（知のジムナスティックス科目）
定員	50人
担当教員	東海　明宏
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　火曜1限　授業開始日（4月10日）
開講場所	吹田キャンパス：工学研究科M3棟211
キーワード	工学と公共政策、リスク評価と管理、予防原則、リスクガバナンス
授業の目的・概要	産業活動がもたらす環境負荷やリスクを低減するための企業と組織の環境マネジメントについて、その理念や方法論、手順を論じる。
学習目標	企業の自主管理、プロダクトスチュワードシップ、拡大生産者責任等の概念をシステムズアプローチによって理解する。
授業計画	1. 序論 環境規制と自主管理 2. 資源性と有害性を有する物質の管理 金属のリスク評価、RoHS指令 3. サプライチェーンを通じた環境管理 欧州の化学物質規制、REACH、WEEE 4. 産業技術のリスク評価 技術のリスクと利益の関係、リスク・リスクトレードオフ 5. 産業エコロジー
授業外における学習	3回の講義に対して1回の頻度で宿題を課す。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	各回の講義において、資料を配布する。
参考文献	中西準子『環境リスク学―不安の海の羅針盤』（日本評論社、2004年）。学術雑誌として、Risk Analysis, Environmental Science & Technology、日本リスク研究学会誌、環境科学会誌。
成績評価	レポートと小テストによって評価する。
特記事項	講義資料は、WebCTにアップロードする。

サステナブルシステムデザイン論

開講科目名	サステナブルシステムデザイン論
単位数	2単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Sustainable System Design Engineering
時間割コード	281260（知のジムナスティックス科目）
定員	70人
担当教員	小林　英樹
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　月曜4限　授業開始日（4月9日）
開講場所	吹田キャンパス：工学研究科M4棟201
キーワード	エコデザイン、ライフサイクル工学、サステナビリティ
授業の目的・概要	人類の最重要課題の一つである持続可能性問題を総合的に解決するために必要な様々な視点を講義により習得する。また、演習により、環境影響評価手法であるライフサイクルアセスメントを適用したライフサイクル設計方法を習得する。
学習目標	・持続可能性問題を構成する地球環境問題、社会経済問題を俯瞰できるようになる。 ・適切なライフサイクルオプションの選択が行えるようになる。 ・ライフサイクルアセスメントを適用したライフサイクル設計を行えるようになる。
授業計画	第1回　総論 第2回　持続可能性問題（1）エネルギー 第3回　持続可能性問題（2）資源 第4回　持続可能性問題（3）複合問題 第5回　ライフサイクルプランニング 第6回　リデュース設計 第7回　リユース性設計 第8回　リサイクル性設計 第9回　システム設計 第10回　ライフサイクル評価（1）LCA 第11回　ライフサイクル評価（2）その他の手法 第12回　ライフサイクル設計演習（1） 第13回　ライフサイクル設計演習（2） 第14回　ライフサイクルシミュレーション 第15回　まとめ、試験
授業外における学習	復習問題の解答を考えること。
履修条件・受講条件	工学系の学部卒業程度の素養が必要。
教科書・教材	教員が用意する資料を用いる。
参考文献	木村文彦ほか編『インバース・マニュファクチャリングハンドブック』（丸善、2004年） 小林英樹『製品ライフサイクルプランニング』（オーム社、2003年） 伊坪徳宏ほか『LCA概論』（産業環境協会、2007年）
成績評価	出席、レポート、演習、期末試験による総合評価。
特記事項	

ナノテクノロジー社会受容特論A

開講科目名	ナノテクノロジー社会受容特論A
単位数	2単位　　授業形態　講義科目　　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Social Engagement on Nanotechnology A
時間割コード	290730
定員	30人
担当教員	伊藤　正
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	集中（春～夏） http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html参照
開講場所	中之島センターその他　http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html参照
キーワード	社会受容、リスク管理、国際標準化、科学技術コミュニケーション
授業の目的・概要	ナノ理工学人材育成においては、社会との関わりの中での技術応用・ナノリスク・標準化の問題がこれから益々重要となってくる。本科目はこれらに応えるものであり、グローバル化の中で製品・デバイスの新規開発に従事する科学技術者自らが果たすべき社会的責任を自覚し、身につける。 担当コーディネータ：阿多誠文特任教授（(株）日本ゼオン)、伊藤正特任教授（ナノサイエンスデザイン教育研究センター）
学習目標	ナノテクノロジーの社会普及、ナノリスク、国際標準化、科学技術コミュニケーションなどを含む社会受容問題に関心を持つことができるとともに、国際社会における社会受容問題と自らの科学技術の研究開発との関わりを積極的に考えることができる。
授業計画	春～夏学期の土曜日に4回にわたり集中講義として開講する。外部講師の日程が確定した段階で、講師、講義主題と合わせて、 http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html に詳細を掲載する。 ナノテクノロジーの社会受容に関する視野を身につけ、産業化における問題点、国際標準化、知財、オープンイノベーション、リスクアセスメント並びに管理手法等の基礎知識、総合デザイン、科学技術政策の考え方、科学技術コミュニケーションを学ぶ。さらにいくつかの検討すべきテーマを取り上げて、ケーススタディーを自分の専門領域または設定されたテーマに対して行う。数名の政策担当者、企業開発担当者、学内教員等が複数回を担当する。内容は、講師による総論・各論の解説と受講生自らが参加する討論及び演習により構成される。 各回の講義で質問事項があれば、講師名を明記して、電子メールにてナノサイエンスデザイン教育研究センターナノプログラム事務局に問い合わせること。 宛先：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp
授業外における学習	最終回の総合討論に向けた課題テーマに対する資料準備
履修条件・受講条件	本副専攻・高度副プログラム履修者の選択科目である。「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」博士前期課程の副専攻プログラム履修者はコースを越えて必修である。高度副プログラム履修者は、可能な限り共通科目としてコースを越えて履修することを推奨する。博士後期課程高度副プログラムの受講者も必修である。また、博士後期課程高度副プログラム受講の社会人特別選抜学生は選択必修である。教室の余裕があれば、その他の学生の受講も許可する。
教科書・教材	教科書は用いないが、毎回の講義の前に、 http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html に講義資料を掲載するので、各自ダウンロードして講義の際に持参すること。
参考文献	必要に応じて講義の際に示されることがある。
成績評価	出席、質問、討論および演習における役割、およびレポートを総合的に判定する。
特記事項	開講形式は、主教室は中之島センターとし、ライブ配信により東京地区（阪大東京オフィス）など数ヶ所での受講を可能とする。詳しい開講日時、遠隔教室の場所については、追って、 http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html に発表する。 なお、本講義は社会人教育受講生も中之島センターで同時に受講・討論を行うので、中之島センターでの受講を奨励する。グループ討論に必要な受講生数が確保できない会場は、統合する場合がある。

環境法
特殊研究（環境法）

開講科目名	環境法、特殊研究（環境法）
単位数	2単位　　授業形態　演習科目　　開講言語　日本語・英語
開講科目名(英)	Environmental Law
時間割コード	310571＝環境法（博士前期）、310655＝特殊研究（環境法）（博士後期）
定員	特になし
担当教員	松本　充郎
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　火曜4限　授業開始日（4月10日）
開講場所	教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	環境訴訟、科学技術と法、人口、水政策、エネルギー政策、土地問題、生物多様性保全
授業の目的・概要	この授業では、「環境問題とは何か」という問いから出発し、環境問題に関わる裁判例や政策的課題を素材として、受講者が各自の関心に沿って立法論的（政策論的)･解釈論的観点から提言を行うことを目指す。具体的には、四大公害訴訟･汚染規制、環境影響評価、廃棄物処理、原子力法、水問題（水害訴訟･水取引･生態系保全)、森林・草原・海の利用・管理などの問題について検討する。その中で、環境訴訟等に係る総論的課題（団体訴訟等の制度設計）やアメリカの国内法との比較や科学技術と法の交錯の問題を扱う。
学習目標	四大公害訴訟や等の主な裁判例を理解できる。 環境法規制の仕組みや各分野の主な裁判例を理解できる。 環境法の基本原理を理解し、四大公害訴訟や現在の規制の仕組みを体系的に理解できる。 既存の法律や裁判例等の現実を踏まえて、制度や判決について提言を行える。
授業計画	授業は、大塚直『環境法Basic』（第2版）の体系に沿って、日米の裁判例・報告書・論文等を輪読する（下記の項目について扱う予定であるが、履修者のニーズに応じて柔軟に対処する)。 1. 環境法の基本理念・基本原則・手法 2. 公害訴訟1、3. 公害訴訟2　公害訴訟の代表例である水俣訴訟や四日市ぜんそく訴訟等の裁判例 4. 環境法と国・自治体の関係1　地方分権改革前の基本判例（徳島市公安条例事件や高知市普通河川等管理条例事件等） 5. 環境法の規制システム1　環境影響評価法 6. 環境法の規制システム2　大気汚染防止法・水質汚濁防止法等 7. 環境法の規制システム3　土壌汚染対策法 8. レポートの中間報告 9. 環境民事訴訟・環境行政訴訟1、10. 環境民事訴訟・環境行政訴訟2　原子力安全規制をめぐる訴訟（民事差止訴訟）／志賀原発訴訟/原子力安全規制をめぐる訴訟（行政訴訟）　伊方原発訴訟・福島第2原発訴訟／原子力損害賠償―制度とその運用―／住民訴訟　泡瀬干潟住民訴訟/団体訴訟の制度設計／放射性廃棄物処理（米国の裁判例・論文等） 11. 環境民事訴訟・環境行政訴訟3　米国の利水と環境の調整に関する訴訟や原子力安全規制・放射性廃棄物処理・原子力損害賠償等に関する訴訟 12. 環境法と国・自治体の関係2　地方分権改革後の法律の運用論や条例論から水質汚濁防止法・廃棄物処理法・河川法等について議論 13. 自然環境の保全　森林の利用・保全と生態系（日米の裁判例・論文等）／草原の利用保全と生態系（阿蘇高原・三瓶山などについての論文・報告書）／治水・水取引・地下水保全・生態系保全・慣習/海の利用・保全と生態系 14. 日照・景観　文化財保護、景観保全条例・空き家条例等の事例研究 15. レポートの概要報告（修論の中間報告等）
授業外における学習	大塚直『環境法Basic』（第2版）や裁判例を読むこと。
履修条件・受講条件	特になし（なるべく民法・行政法を履修していることが望ましい)。
教科書・教材	大塚直『環境法Basic』（有斐閣、第2版)、Daniel A. Farber, Environmental Law in a Nutshell（9th edition), West Academic Publishing（フィンドレー・ファーバー著『アメリカ環境法』木鐸社、1992年は第2版の翻訳)。六法は必携。その他、必読判例や文献については指示。
参考文献	北村喜宣『環境法』（第4版、2017年)、交告尚史ほか『環境法入門』（第3版、2015年)、新保輝幸・松本充郎編『変容するコモンズ』（ナカニシヤ出版、2012年)、Daniel A. Farber and Ann Carlson, Cases and Materials on Environmental Law, 9th（2013）
成績評価	受講者の人数によるが、概ねレポート60％、発表が20％、授業時間中の発言等が20％。
特記事項	

特殊講義（開発と環境）
特殊研究（開発と環境）

開講科目名	特殊講義（開発と環境）、特殊研究（開発と環境）
単位数	2単位　　授業形態｜ 演習科目　　開講言語｜ 英語
開講科目名(英)	Lectures: Development and Environment（博士前期） Workshop: Development and Environment（博士後期）
時間割コード	310778（知のジムナスティックス科目）＝特殊講義（開発と環境）（博士前期） 310779＝特殊研究（開発と環境）（博士後期）
定員	15人
担当教員	大槻　恒裕
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　火曜2限　授業開始日（10月1日）
開講場所	教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	経済、環境、開発
授業の目的・概要	This course will enhance the understandings of the underlying problems in pursuing interlinked but often competing social objectives-environmental conservation and economic development. This course will cover selective topics in contemporary issues in environmental conservation and development, including property rights and natural resource management, economic growth and the environmental quality, international trade and environment, and transboundary environmental problems.
学習目標	Students are expected to understand the underlying problems in pursuing interlinked but often competing social objectives-environmental conservation and economic development. Students will gain in opportunities to apply the economic theories and quantitative methods to systematically analyze the implication of alternative public policies in the light of welfare or sustainability criteria.
授業計画	第1回　Introduction: fundamental concepts in development and environment 第2回　Background of environmental management and sustainability 第3回　Economic foundation for efficient management and sustainable development 第4回　The economic systems and the environment – Static and dynamic efficiency 第5回　The economic systems and the environment – Defining sustainability 第6回　Methods for valuing environment 第7回　Concepts of property rights, externalities, and environment 第8回　Economic analysis of property rights and environment 第9回　Fisheries conservation 第10回　Economics of local air and water pollution 第11回　Background and economic analysis of tropical forest conservation 第12回　Background of poverty and sustainability 第13回　Economics of poverty and resource degradation 第14回　Population and the environment 第15回　Climate change and international coordination
授業外における学習	Students are expected to read the required readings in prior to each class, and to review the lecture notes after the class. They are also expected to do homework assignment from time to time.
履修条件・受講条件	ミクロ経済学の基本的知識があること (It is desirable to have knowledge of introductory microeconomics)。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義第1日目にリーディングリストを配布する（I will distribute the reading list at the first lecture)。 Major references: Tietenberg, Tom and Lynne Lewis (2011) Environmental and Natural Resource Economics (9th Edition), Prentice Hall.
成績評価	平常点及び期末レポートを総合して評価する（Grade will depend on a term paper, class participation, and assignments)。
特記事項	講義は原則として英語で行う（Lecture is mainly conducted in English)。

特殊講義（人事の経済分析 1）
プロジェクト演習（人事の経済分析 3）

開講科目名	特殊講義（人事の経済分析 1）、プロジェクト演習（人事の経済分析 3）
単位数	2 単位　　**授業形態**　講義・演習科目　**開講言語**　日本語
開講科目名(英)	Economic Analysis of Personnel 1, 3
時間割コード	310787＝特殊講義（人事の経済分析 1）（博士前期） 310670＝プロジェクト演習（人事の経済分析 3）（博士後期）
定員	20 人
担当教員	松繁　寿和
対象所属・年次	全研究科大学院生 1・2 年
開講区分･曜日･時間	通年　土曜 3・4 限　授業開始日（4 月 13 日）
開講場所	教室は KOAN 等で確認すること。
キーワード	人事処遇制度、労働意欲、内部労働市場、日本的経営
授業の目的・概要	企業内労働市場や人事処遇制度に関する理論を学び現実の制度を分析する視点を身に着ける。また、海外の人事制度を学び国際比較を行い各国の企業内人事制度に関する知識を深め、その背景にあるメカニズムを考える。
学習目標	現実の人事制度を理解するとともに、その経済学的裏付けと、効果測定や問題発見を行うための技法を身につけることを目標とする。
授業計画	1. 人事制度はなぜ必要か 2. 企業外環境 3. 企業内の組織環境 4. 従業員特性 5. 計画と評価 6. 中途採用の必要性
授業外における学習	実習課題の準備及び文献の購読。
履修条件・受講条件	プロジェクト演習（人事の経済分析 3）は、特殊講義（人事の経済分析 1）を取っている者のみが履修できる。 日本の人事制度に関する知識や人事関係部署での経験を持っていることが必要である。 経済数学、計量経済学の基礎を身につけていることが求められる。
教科書・教材	特になし。
参考文献	E.P.Lazear, Personnel Economics for Managers,（John Wiley & Sons, 1997） エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス著（樋口、成松、杉本、藤波訳）『人事と組織の経済学・実践編』（日本経済新聞出版社、2017 年）
成績評価	レポートと報告（30～60 分）によって決定する。
特記事項	

京都大学・科目一覧

※　副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の受講生は、大阪大学と京都大学との間における単位の相互認定に関する協定書に基づき、京都大学で実施される下記科目を履修し、単位を取得することができます。履修希望者は、COデザインセンターの担当教員まで、授業開始日の半年から3ヶ月以上前までにご相談ください。

区分		科目名	期間		主担当教員（研究科）	単位
			前期	後期		
選択科目	選択科目Ⅰ：基軸科目群	現代社会と科学技術入門	○		川上 浩司（医学研究科）、他	1
		現代社会と科学技術		○	川上 浩司（医学研究科）、他	2
		科学技術イノベーション政策総合演習	夏期集中		川上 浩司（医学研究科）、他	2
		学術情報リテラシー実践	○		小山田 耕二（学術情報メディアセンター）	2
		医薬政策・行政		○	川上 浩司（医学研究科）	1
		問題解決思考		○	末松 千尋（経営管理大学院）	2
		疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山 健夫（医学研究科）	1
		公共政策論Ⅰ		○	佐野 亘（人間・環境学研究科）	2
		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング		○	伊勢田 哲治（文学研究科）	2
		科学技術・イノベーション概論	○		関根 仁博（経済研究所）	2
		科学技術・イノベーションと大学		○	関根 仁博（経済研究所）	2
	選択科目Ⅱ：イシュー科目群	可視化シミュレーション学		○	小山田 耕二（学術情報メディアセンター）	2
		医薬品の開発と評価		○	川上 浩司（医学研究科）	1
		京都学のための科学	○		小山田 耕二（学術情報メディアセンター）	2
		応用経済学		○	依田 高典（経済学研究科）	2
		政策のための研究方法論	○		カール・ベッカー（学際融合教育研究推進センター）	2
		医療政策のELSI［ELSIイシュー科目群］		○	カール・ベッカー（学際融合教育研究推進センター）	2
		健康情報学Ⅰ		○	中山 健夫（医学研究科）	2
		文献評価法	○		中山 健夫（医学研究科）	1
		技術者倫理と技術経営	○		松原 厚（工学研究科）、他	2
		共生社会環境論演習3B		○	佐野 亘（人間・環境学研究科）	2
		まちづくりとまち経営		○	吉田 恭（経営管理大学院）	2
		情報社会論	○		大手 信人（情報学研究科）	2
		現代社会論演習ⅠB		○	広井 良典（こころの未来研究センター）	2

2018年度 授業時間割表 (2018年3月現在)

(吹：吹田キャンパス、豊：豊中キャンパス)、[他]：その他)

【春学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20		・産業環境マネジメント論 (博士前期) 吹			
2限 10:30-12:00		・COデザイン講義 (Food Security and Sustainability) (院) 豊			
3限 13:00-14:30				・サステイナビリティ評価・技術論 (博士前期) 吹	
4限 14:40-16:10	・サステナブルシステムデザイン論 (博士前期) 吹	・環境法 (博士前期) 豊 ・特殊研究 (環境法) (博士後期) 豊		・科学技術社会論入門 (院) 豊	
5限 16:20-17:50		・科学技術コミュニケーション入門A (院) 豊	・科学技術イノベーション政策概論A (隔週) (院) 豊		
6限 18:00-19:30	・訪問術A (質的研究のデザインA) (院) 豊		・科学技術イノベーション政策概論A (隔週) (院) 豊		
7限 19:40-21:10	・訪問術A (質的研究のデザインA) (院) 豊				

【夏学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20		・産業環境マネジメント論 (博士前期) 吹			
2限 10:30-12:00		・COデザイン講義 (Food Security and Sustainability) (院) 豊			
3限 13:00-14:30				・サステイナビリティ評価・技術論 (博士前期) 吹	
4限 14:40-16:10	・サステナブルシステムデザイン論 (博士前期) 吹	・環境法 (博士前期) 豊 ・特殊研究 (環境法) (博士後期) 豊		・科学史・科学哲学入門(院) 豊	
5限 16:20-17:50			・科学技術イノベーション政策概論B (隔週) (院) 豊	・特別講義A (Science, Technology and Society) (院) 豊	
6限 18:00-19:30	・訪問術B (体験型ジャーナリズム入門) (院) 豊		・科学技術イノベーション政策概論B (隔週) (院) 豊		
7限 19:40-21:10	・訪問術B (体験型ジャーナリズム入門) (院) 豊				

【集中 (夏)】　科学技術コミュニケーション演習 (9月26日、27日、28日) (院) 豊
科学技術イノベーション政策総合演習 (8月9日、28日、29日、30日) (院) 豊& [他]
ライフサイエンスの倫理と公共政策学 (9月10日、11日、12日) (博士前期) 吹
ナノテクノロジー社会受容特論A (春～夏学期中の土曜日に4回) (博士前期) [他]

【秋学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20					
2限 10:30-12:00		・特殊講義(開発と環境)（博士前期）豊 ・特殊研究(開発と環境)（博士後期）豊	・総合演習（生命倫理と法）（博士前期）豊 ・特定研究（生命倫理と法）（博士後期）豊		・公共政策Ⅰ（博士前期）豊
3限 13:00-14:30					
4限 14:40-16:10			・特別講義（インターネット技術と法規制）（学部、院）豊	・科学技術と公共政策Ａ（院）豊	
5限 16:20-17:50	・社会における科学技術特定演習（博士前期）吹		・科学技術と社会特論Ａ（隔週）（院）豊	・特別講義Ｂ（Crossing Borders in Higher Education and Research）（院）豊 ・公共政策Ⅰ（博士前期）豊	・科学技術移転論（博士前期）豊
6限 18:00-19:30			・科学技術と社会特論Ａ（隔週）（院）豊		
7限 19:40-21:10					

【冬学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20					
2限 10:30-12:00		・特殊講義(開発と環境)（博士前期）豊 ・特殊研究(開発と環境)（博士後期）豊	・総合演習（生命倫理と法）（博士前期）豊 ・特定研究（生命倫理と法）（博士後期）豊		
3限 13:00-14:30					
4限 14:40-16:10			・特別講義（インターネット技術と法規制）（学部、院）豊	・科学技術と公共政策Ｂ（院）豊	
5限 16:20-17:50	・社会における科学技術特定演習（博士前期）吹	・科学技術コミュニケーション入門Ｂ（院）豊	・科学技術と社会特論Ｂ（隔週）（院）豊	・公共政策Ⅰ（博士前期）豊	・科学技術移転論（博士前期）豊
6限 18:00-19:30			・科学技術と社会特論Ｂ（隔週）（院）豊		
7限 19:40-21:10					

【通年】　研究プロジェクト（月1回、水5・6限）（院）豊
特殊講義（人事の経済分析1）（土3・4限）（博士前期）豊
プロジェクト演習（人事の経済分析3）（土3・4限）（博士後期）豊

平成30年度COデザインセンター 学年暦

平成30年（2018年）4月

日	月	火	水	木	金	土
		入学式				
1	2	3	4	5	6	7
8	①❶ 9	①❶ 10	①❶ 11	①❶ 12	①❶ 13	14
15	②❷ 16	②❷ 17	②❷ 18	②❷ 19	②❷ 20	21
22	③❸ 23	③❸ 24	③❸ 25	③❸ 26	③❸ 27	28
29	**30**					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	**3**	**4**	**5**
6	④❹ 7	④❹ 8	④❹ 9	④❹ 10	④❹ 11	12
13	⑤❺ 14	⑤❺ 15	⑤❺ 16	⑤❺ 17	⑤❺ 18	19
20	⑥❻ 21	⑥❻ 22	⑥❻ 23	⑥❻ 24	⑥❻ 25	26
27	⑦❼ 28	⑦❼ 29	⑦❼ 30	⑦❼ 31		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					⑦❼ 1	2
3	⑧試❽ 4	⑧試❽ 5	⑧試❽ 6	⑧試❽ 7	⑧試❽ 8	9
10	①❾ 11	①❾ 12	①❾ 13	①❾ 14	①❾ 15	16
17	②❿ 18	②❿ 19	②❿ 20	②❿ 21	②❿ 22	23
24	③⓫ 25	③⓫ 26	③⓫ 27	③⓫ 28	③⓫ 29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	④⓬ 2	④⓬ 3	④⓬ 4	④⓬ 5	④⓬ 6	7
8	⑤⓭ 9	⑤⓭ 10	⑤⓭ 11	⑤⓭ 12	⑤⓭ 13	14
15	**16**	⑥⓮ 17	⑥⓮ 18	⑥⓮ 19	⑥⓮ 20	21
22	⑥⓮ 23	⑦⓯ 24	⑦⓯ 25	⑦⓯ 26	⑦⓯ 27	28
29	⑦⓯ 30	⑧試試 31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			⑧試試 1	⑧試試 2	⑧試試 3	4
5	⑧試試 6	7	8	9	10	**11**
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	**17**	18	19	20	21	22
23	**24**	25	26	27	28	29
30						

10月

日	月	火	水	木	金	土
	①❶ 1	①❶ 2	①❶ 3	①❶ 4	①❶ 5	6
7	**8**	②❷ 9	②❷ 10	②❷ 11	②❷ 12	13
14	②❷ 15	③❸ 16	③❸ 17	③❸ 18	③❸ 19	20
21	③❸ 22	④❹ 23	④❹ 24	④❹ 25	④❹ 26	27
28	④❹ 29	⑤❺ 30	⑤❺ 31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	**3**
4	5	⑥❻ 6	⑥❻ 7	⑤❺ 8	⑤❺ 9	10
11	⑤❺ 12	⑦❼ 13	⑦❼ 14	⑥❻ 15	⑥❻ 16	17
18	⑥❻ 19	⑧試❽ 20	⑧試❽ 21	⑦❼ 22	**23**	24
25	⑦❼ 26	①❾ 27	①❾ 28	⑧試❽ 29	⑦❼ 30	

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	⑧試❽ 3	②❿ 4	②❿ 5	①❾ 6	⑧試❽ 7	8
9	①❾ 10	③⓫ 11	③⓫ 12	②❿ 13	①❾ 14	15
16	②❿ 17	④⓬ 18	④⓬ 19	③⓫ 20	②❿ 21	22
23	**24**	③⓫ 25	26	27	28	29
30	31	12/25は月曜日の振替授業実施日				

平成31年（2019年）1月

日	月	火	水	木	金	土
					③⓫ 4	5
		1	2	3		
6	④⓬ 7	⑤⓭ 8	⑤⓭ 9	④⓬ 10	④⓬ 11	12
13	**14**	⑥⓮ 15	⑥⓮ 16	⑤⓭ 17	18	19
20	⑤⓭ 21	⑦⓯ 22	⑦⓯ 23	⑥⓮ 24	⑤⓭ 25	26
27	⑥⓮ 28	⑧試試 29	⑧試試 30	⑦⓯ 31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
	2/5は金曜日の振替授業実施日、2/6は月曜日の振替授業・試験実施日				⑥⓮ 1	2
3	⑦⓯ 4	⑦⓯ 5	⑧試試 6	⑧試試 7	⑧試試 8	9
10	**11**	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	**21**	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

○**数字** ターム科目の授業日
試 ターム科目の試験日
●**数字** セメスター科目の授業日
試 セメスター科目の試験日

授業時間

第1時限	8:50 ～ 10:20
第2時限	10:30 ～ 12:00
第3時限	13:00 ～ 14:30
第4時限	14:40 ～ 16:10
第5時限	16:20 ～ 17:50
第6時限	18:00 ～ 19:30
第7時限	19:40 ～ 21:10

土・日・祝日及び休業日を示す（太字は祝日）。

大学行事又は入試準備のための臨時休業日（予定）を示す。

春学期授業開講期間（4/1～6/10）

夏学期授業開講期間（6/11～9/30）

秋学期授業開講期間（10/1～12/7）
※ただし、11/27,11/28,12/4,12/5,12/6は冬学期の授業を行う。

冬学期授業開講期間（11/27～3/31）
※ただし、11/29,11/30,12/3,12/7は秋学期の授業を行う。

夏季休業期間

4月29日(日)　いちょう祭準備
4月30日(月)～5月1日(火)　いちょう祭
5月 2日(水)　いちょう祭片付け
11月 1日(木)　大学祭準備
11月 2日(金)～4日(日)　大学祭
11月 5日(月)　大学祭片付け
1月18日(金)　センター試験準備

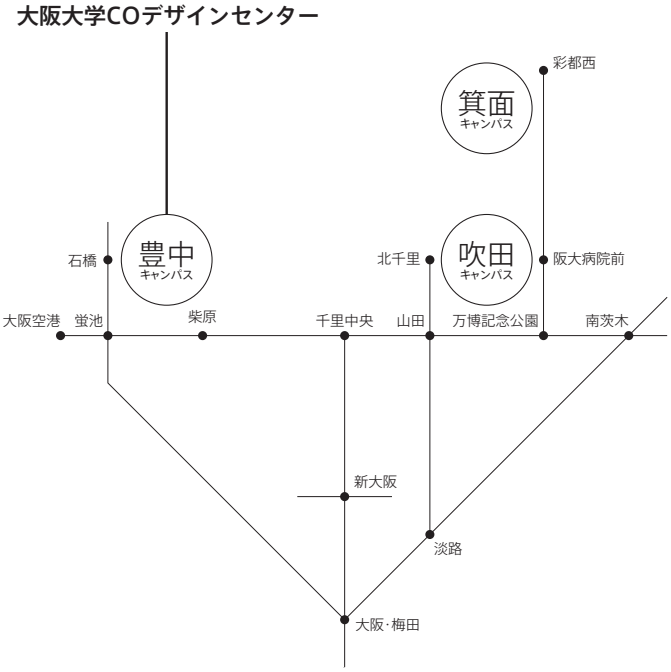
大阪大学COデザインセンター所在地等

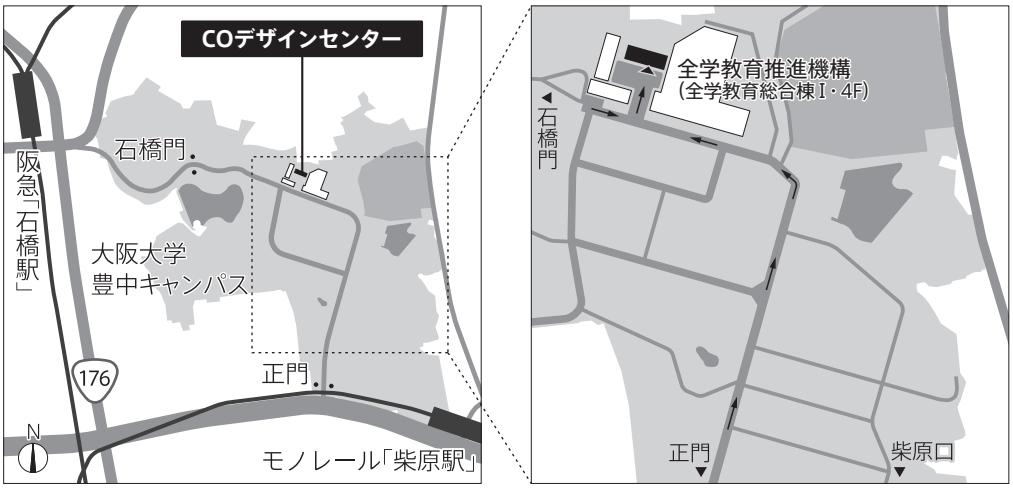
〒560-0043　豊中市待兼山町1-16

大阪モノレール　柴原駅下車　北西へ徒歩約10分

阪急電車宝塚線　石橋駅下車　東へ徒歩約15分

全学教育推進機構　全学教育総合棟Ⅰ　4階





履修に関する問い合わせ先

全学教育推進機構等事務部　COデザインセンター担当

Tel.　06-6850-6214

E-mail　stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp

URL　http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/

http://stips.jp/

http://stips.jp

Osaka University Center for the Study of Co* Design